



# 月刊 もぐら通信

Mole Communication Monthly Magazine

2020年8月1日 第117号 第三版

[www.abekobosplace.blogspot.jp](http://www.abekobosplace.blogspot.jp)

あなたへ：  
迷う事のない迷路を通して  
あなただけの番地に届きます

「実は『不思議の国のアリス』に触発されたんだ。イメージがあそこまで自由でいいんだということ。徹底的に自分をイメージ上で解放していこうとした。心理とか情緒とかは、ほとんど切り捨てて、物に即するという。構造は反リアリズムだが、ある意味では、即物的でリアルでもあるんだ」「あれ（註：『不思議の国のアリス』に触発されて書いた『壁』所収の作品群）を通して『砂の女』にいくんだ。今度の『方舟さくら丸』もあの時つかんだものがなかったら、なかなかイメージで押し切るというのは難しかったかもしれない」

（1985年4月8日付愛媛新聞の「〈作家とその時代—芥川・直木賞50年〉」：全集第30巻、679ページ）



気違ひ御茶会



目次

- 1 目次…page 2
  - 2 記録&ニュース&掲示板…page 3
  - 3 巻頭詩（5）：肌よ：フィリップ・ラーキン…page 1 2
  - 4 全集未収録作品：シナリオ『億萬長者』生原稿 分載（3/4）映画評論1954.8月号：安部公房他…  
page 1 6
  - 5 『周辺飛行』論（2 9）：3。『周辺飛行』について（2 3）：鴈魚（「箱男」より）——周辺飛行  
2 5 岩田英哉…page 2 5
  - 6 『砂漠の思想』を読む（4）：ミュージカルス：岩田英哉…page 4 2
  - 7 私の本棚（3 0）：西村幸祐・元陸将福山隆対談『「武漢ウイスル」後の新世界秩序』を読む…  
page 4 9
  - 8 ネット・メディア論（8）：6。二階層戦争論とメディア論の関係：岩田英哉…page 5 2
  - 9 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（8）：5.9 日本位相習合史：岩田英哉…page 6 3
  - 1 0 Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界」シリーズ（1 0）：扇：待て次号：岩田英哉…  
page 6 7
  - 1 1 編集後記…page 7 0
- 
- ・連載物・単発物次回以降予定一覧…page 6 8
  - ・編集方針…page 7 1

PDFの検索フィールドにページ数を入力して検索すると、恰もスバル運動具店で買ったジャンプ・シューズを履いたかのように、あなたは『密会』の主人公となって、そのページにジャンプします。そこであなたが迷い込んで見るのはカーニヴァルの前夜祭。

## ニュース&記録&掲示板

### The best tweets of the month



春は馬車に乗って@journalduvoleur・Jun 1

安部公房の「弱者に対する愛はいつだって殺意がこめられている」って言葉を常に心に留める。



Silver Mole

Prize

虚無@satsuki\_dokkoi・16h

安部公房だの人間椅子だの通じる職場は初めてだ

#### 今月の幽霊はここにいる

竜 PIO@yappata2・Jun 29

急に思い出したけど1984年頃、日芸がやった安部公房「幽霊はここにいる」がめっちゃつまなくてアンケートに「熱意が感じられない」て書いたら「あいつを逃がすな！」って追われ、楽屋に連れ込まれて集団で吊し上げられたことがありますな。

#### 今月の壁

のぎざか@nogizaka55・Jun 28

安部公房「魔法のチョーク」1950年「人間」発表を読む。貧しい画家の若者が描いた絵が実態となるチョークを手に入れ食べ物は手に入れるが・・・Splashing sweat symbol落語「だくだく」は描いた絵が本物の「つもり」で実態がないSplashing sweat symbol安部公房は学生時代最も読んだ作家。「砂の女」「壁」「他人の顔」「箱男」等々面白い。



#### 今月の東大医学部卒業名簿

鉄門パパ@東大医学部卒×投資×子育て@tetsumon\_papa・3h

毎年送られてくる「鉄門名簿」には、明治時代から続く、東大(またはその前身の東京帝国大学)医学部出身者全員の氏名が記載されています。意外と文学者が多いです。

森林太郎(森鷗外)

太田正雄(木下杢太郎)

斎藤茂吉

水原豊(水原秋桜子)

小木 貞孝(加賀乙彦)

安部公房

歴史を感じます。



### 今月のハヤカワ・SFコンテスト

オバカのq太郎@q11499491・Jun 29

安部公房 早川書房 主宰の「ハヤカワ・SFコンテスト」では、選考委員も務めた。

「第一回の選考委員」1961年

安部公房

半沢朔一郎(朝日新聞・科学部・初代部長)

藤本真澄(映画プロデューサー)

田中友幸(ゴジラ・シリーズのプロデューサー)

円谷英二

早川清(早川書房 創業者)、SFマガジン編集部

### 今日の三島由紀夫

嵐山Red apple林檎@愛好家\_文芸音楽@ringoarashiyama・Jun 28

今日の読売新聞の記事をみて読んでみたいと思いました。

三島由紀夫と安部公房のお勧め本を教えてくださいSmiling face with smiling eyes

### 安部公房

たゞいまいましい想像力を發揮して、社会が抱える閉鎖性や人間の不安な面を前衛的な手法で小説化した安部公房。今回の投票で最も人気を集めたのは、昆虫採集に出かけた男が砂丘の一軒家に閉じ込められ、女と奇妙な生活をおくる代表作『砂の女』(新潮文庫、以下同じ)でした。静岡縣磐田市の宮崎健一さん(70)は「寓意に満ちた物語に、いろいろ引き込まれました。安部公房は日本文学の枠に収まりき

### どっち派?

今回は豪華けんらんな文体で読者を魅了し、今年没後50年を迎える三島由紀夫と、シニールな世界観で現代社会を表現した安部公房の対決です。ノーベル文学賞の候補にもなり、日本文学をリードした両者の作品は、幅広い世代の人気を集めました。

HONライン倶楽部

### 三島由紀夫

三島は青春のさなかに出会う読者が多いようです。「コナチ編の自衛隊中に読みあさりました」と打ち明けてくれたのは、今回の投票者では最年少、東京都目黒区の磯藤太希さん(16)。京都の金閣寺放火事件に材をとった代表作『金閣寺』(新潮文庫)を読んで、「著者自身の美学が書かれていて、大好きな小説と特別な作家になりました」と興奮気味に話してくれました。

### 美学表す美しい文体

緻密かつ、完璧な文章で物語を訪れた三島。大人に対する反抗を少年の目を通して描いた『午後の曳船』(同)を読んで、川崎市の斎藤律子さん(43)は「物語の運び方は考え抜かれていて、まるで数式の上の」という感想を抱いたそうです。

三島は純文学だけでなく、エンタメ色の漂う作品も残しました。『レイボーイとお嬢さん』(角川文庫)を

「お嬢さん」(角川文庫)をチョイスした神奈川県大井町の石田月子さん(25)は「主人公の心情の変化が美しい文体

で表現されていて、男性と出会うことで、股を穿つ女性の姿が印象的でした」と語り、30代の頃には演劇に熱中した三島『近代集』(新潮文庫)では、古曲を現代風にアレンジした楽曲を現代人の心に残した。美城順つぐは「人間の真実を、戸市の長谷川文庫は『短い文章が、愛や死についての書き取り』(新潮文庫)が、鳥のイメージと通じ

### 寓意で描く人間存在

らない人ではないでしょう」と語り、男が救急車に連れ去られた妻を追い、巨大病院に迷い込む『密室』(新潮文庫)を、新井昭彦さんの大塚倫彦さん(21)。「社会が持つ不自由さの中に、ある不思議な安心感を描いていて、ハブとさせられました」と話します。

に包まれる『赤い顔』(二葉社)に所収)は高校の国語の教材にもなり、読者に鮮烈な印象を残すようです。札幌市の小島哲也さん(47)はこの作品を

「さっかけに、他の作品を次々に手に取ったこの中で、ここまで心をつかまれた作家は安部公房だけですよ」とほれ込んだ様子でした。茨城県ひたなか市の井上匡さん(60)は種になった男のてんまつを語った『種』(R社)の発明・船の頭を所収を教科書で読みました。「カフカの『変身』をほうふつとさせる内容で、人間存在や文

「愛・こころ健一」(1931年、早稲田大学文学部卒、51年に駿河川で自殺)は、22年に『砂の女』で純文学界、70年に『人間失格』でエンタメ界、演劇活動も行った、戯曲に『緑色のストッキング』などがある。晩年は文壇と距離を置き、執筆に専念した。早い段階で『砂の女』を所収し、死後、フロッピーの中から未発表作品が発見された。

雑誌で文学論交わす  
今回は、ここ数年では最も多い投票数で、皆さんの熱い思いを感じました。1966年の文芸誌に掲載の

安部は「言葉」をあげ、それぞれの作家性を表しているようで面白い。話題は他者を小説でいかに描くかということに及び、安部は「他者の発見という

学に興味がある。終末的世界の電子頭脳。未来を語り出した。選んだのは、後藤良さん(20)に加入、陸全分完備でウイリスで人を抱えている。小島と通じ

らない人ではないでしょうか」と語ります。

男が教車庫に連れ去られた妻を追い、巨大な病院に迷い込む『閉塞』を打ち込んだのは、新潟県新潟市の大森信泰さん(21)。「社会が持つ不自由さの中にある不思議な安心感を感じていて、ハッとさせられました」と話します。



「さっかげに、他の作品を次々に手に取った」といって、「こころ」まで心をつかまれた作家は安部公房だけでした。「ほれぬ未来を語り出す『第四回水期』を運んだのは、大分県別府市の後藤良さん(61)。「アイチア」に加え、読者の文章など全てが完結です。新型コロナウイルスで人々が未来に不安を抱えている今こそ読まれる小説だと思えます」

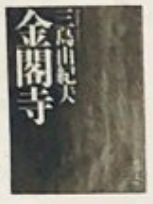


あへ、このほら、1970年、東京生まれ、東京大学文学部卒、1970年に安部公房『砂の女』で読売文学賞、70年に安部公房『砂の女』を結成し、演劇活動も行った。戯曲に『砂の女』、『キング』などがある。1970年代は文壇で活躍し、執筆に専念した。早い段階で『プロ』を用いており、札幌、福岡、ロンドンの中から未発表作品が発表された。



みしま、ゆきお、1970年、東京生まれ、東京大学文学部卒、1970年に安部公房『砂の女』で読売文学賞、70年に安部公房『砂の女』を結成し、演劇活動も行った。戯曲に『砂の女』、『キング』などがある。1970年代は文壇で活躍し、執筆に専念した。早い段階で『プロ』を用いており、札幌、福岡、ロンドンの中から未発表作品が発表された。

緻密かつ、完璧な文章で物語を紡いだ三島。大人に対する反抗を少年の目を通して描いた『午後の曳船』(同)を評して、川崎市の弁護士さん(48)は「物語の運び方は考え抜かれていて、まるで数式の上の」という感想を述べたそうです。



三島は純文学だけでなく、エンタメ色の濃い作品も残しました。『プレイボーイ』とお嬢様の結婚を語る戯曲を描いた『お嬢さん』(角川文庫)をチョイスした神奈川縣大井町の石田月子さん(58)は「主人公の心情の変化が美しい文体

で表現されていて、男性と出会ったことで愛を破る女性の姿が印象的でした」と語ります。別の頃には演劇に熱中した三島。「近代能楽集」(新潮文庫)、「近代能楽集」(新潮文庫)では、古典能楽を現代風にアレンジした戯曲を続々と発表できます。茨城県つくば市の橋本住子さん(72)は「古典を愛用し始めた才能に驚き、愛や死についての言葉が心に残りました」と振り返ります。

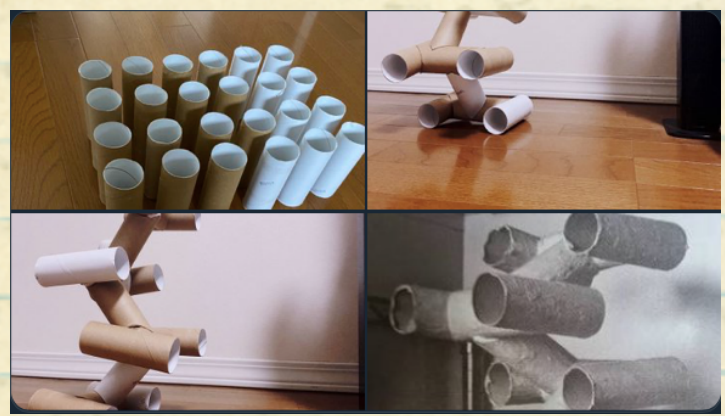
### 雑誌で文学論交わす

今回は、ここ数年では最も多い投稿数で、皆さんの熱い思いを感じました。1966年の文芸誌に掲載の『二十世紀の文学』(河出文庫『東京の感情』所収)と題した対談で、両者は今後の現代文学のテーマについて意見を交わしました。三島(左)性、

安部は「言葉」をあげ、それぞれの作家性を表しているように面白いです。話題は他者や小説でいかに描くかということに及び、安部は「他者の発見」と語っています。いさかいの言葉があふれる今、小説の役割はますます大きくなっているのかもしれない。(創)

## 今月のトイレトペーパー・オブジェ

ドナルドダック(じゃない方)@kusyami\_suna・Jun 27  
安部公房の本に載っていて真似して作ったトイレトペーパーの芯オブジェ



## 今月の痴漢

まる@ボダジュワレ@maro0624・Jun 26  
これって日本のことだよな。まあ安部公房氏は日本を思って書いたのだろうけど。

## 今月のウエー

ホッタタカシ@t\_hotta・Jun 18  
ちなみに「安部公房スタジオ」については、私もかつてこんなブログをければ御一読ください。

【「安部公房の劇場」をめぐる一夜】

死との闘いにほかならなかったのだ。だから、特定の対象を持たない痴漢的な性の表現は、つまり、死に瀕している個体の、人類的恢復の願望だとも言えるのではあるまいか。その証拠に、兵士はすべて、確実に痴漢化する。もし、市民の中で、痴漢の数が増大しているとしたら、その都市、もしくは国家自体が、内部に大量の死をかかえ込んでいることの証拠になるだろう。人が死を忘れられるとき、性もはじめて対象をもった愛に変わり、人間の安定した再生産も保証されることになるのだ。



「安部公房の劇場」をめぐる一夜：スローリィ・スローステップの怠惰な冒険  
『愛の眼鏡は色ガラス』（1973）の稽古を伝える記事『現代演劇のための俳優ワークショップ』の最終日に行われた講座に参...  
[ch.nicovideo.jp](http://ch.nicovideo.jp)

巖谷國士@papi188920・Jun 6

出会いもある。清水谷公園の集会で幼なじみと出くわし、彼女が学生劇団にいることを知った。やがて見に行った芝居が安部公房の『どれい狩り』で、彼女は檻の中でウエ〜！ウエ〜！と叫んでいた。デモが地下演劇につながった。彼女にお礼を言いたい。と思っていれば50数年後に連絡があつて会えた。★

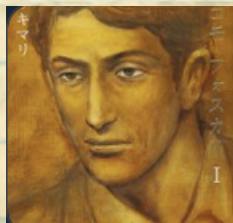
### 今月の人命救助法

ホッタカシ@t\_hotta・Jun 17

安部公房『人命救助法』は、狂言の人命救助劇をでっちあげ表彰状を獲得しようと企む男たちの陰謀劇。語り手の男女が事態を見ながら即興的な会話を挟むことで、「傍観者」の立場も入れ込むメタ構造になっている。ラスト、マヌケな陰謀を傍観者の我々が笑って見ていられるのはいつまでのことか……。

### 今月のヤマザキマリ

【ジャコモ・フォスカリ 1 (オフィスユーコミックス)/ヤマザキマリ】知人のお店のフリマで見かけて購入。どうやら先日亡くなられたドナルド・キーン氏が主人公のモデルらしい。安部公房や三島由紀夫と… →



ジャコモ・フォスカリ 1巻 シンゴ。さんの感想 - 読書メ...  
ジャコモ・フォスカリ 1巻。知人のお店のフリマで見かけて購入。どうやら先日亡くなられたドナルド・キーン氏が...  
[bookmeter.com](http://bookmeter.com)

### 今月の仮説設定文学論

志兎鷲@Shitosagi・Jun 16

安部公房は、社会の『ある要素』を意図的に拡大することで、小説世界を創り出します。そして、そこに登場人物達を放り込んで物語を作っていく。読者は、そこに社会の『現実』を見ます。作家によって歪められた現実によって、現実がより浮かび上がってくるという奇妙なパラドックス。現実性とは何か？

古義人@cogito\_kobo・May 13

安部公房はSFに必要なのは仮説の精神であり、現実世界への考察から生まれた仮説を元に立ち上げた小説世界に人間を置いた場合に起こり得る事象を書くことだと捉えていて、世間に流布しているものとは違った意味での「実験小説」作家だった。

### 今月の箱男

初見健一@ken1hatsumi・Jun 16

紙箱入りの商品が次々とパウチ入りになってる昨今、フジミネラル麦茶だけは紙箱入りを貫いてほしい。パウチはモノから魅力を根こそぎに奪う悪霊だ。悪霊に取り憑かれたケログを見よ、ミルクココアを見よ、コメッコを見よ！ 俺は箱が好きだ。箱男になって安部公房に書いてもらいたいくらい好きだ。



マメGreen book@mame3184・May 26

『箱男』#読了 初めて安部公房の小説を読んだのですが、直ぐに理解しました。彼は変態です。“覗く”という行為には優越感や安心感だけでなく場合によっては性的興奮をも伴うようです。他人に観察されることなく他人を観察したいという欲求、精神的に“箱男”でありたいとの欲求には、少し共感します。

マメGreen book@mame3184・May 24

もし眠くなかったら美術館に行こうと思ったけれど眠かったので2時間昼寝した。起きると夕方だった。私は安部公房の『壁男』を持って家を出た。自転車で近所を走ると老夫婦とすれ違った。彼らは若い柴犬を散歩させていた。ワックスで磨きたての床みたいにつやつやの毛並みが軽やかに揺れていた。

ワタナベアニ@watanabeani・May 15

レスマジきことだけど、このことを考えると、安部公房の『箱男』は慧眼だったんだなあといふ今更ながらに感じる

田中泰延 @hironobutnk · May 15

自分が誰だか絶対にバレたくない、でも自分をアピールしたい、他人と繋がりたい、構われたい、チャホヤされたい、トクしたい、でもとにかく自分はどこの誰だか絶対にバレたくない、

これ、本当に現代の病理だと思う。

俺は現代のそんな病気の人たちのために

...何にもしたくないわ  
関わりたくないわ

志兎鷲@Shitosagi・May 5

安部公房の『箱男』は、段ボール箱を被って生活することで『個性』を消失する。個性は、現代社会では尊いものように信仰されているが、例えば、炎上して個人情報さらされた時、個性は突然牙を向く。

何者かであるために、あなたは強く攻撃される。個性などなければ、あなたが標的になることはない。

文喫 六本木@bunkitsu\_rpng・Apr 22

安部公房『箱男』(新潮文庫)

その方舟に乗せてもらえないなら、もう箱を作るしかない…！とさえ思ってしまう日々ですね。私が箱男、貴方が箱男。「箱はぼくにとって、やっとたどり着いた袋小路どころか、別世界への出口のような気さえする。」(涎) #本日の一冊 #はまる

書肆鯖【シヨシサバ】@bookssubba・Apr 11

【入荷情報】安部公房 / 箱男。初版、ビニカバ解説別紙付。この閉塞感、俺が箱に閉じ込められているのか、それとも世界の方が箱に成り果ててしまったのであろうか。箱函匣筐。 <http://subbacultcha.shop-pro.jp/?pid=150163555>

### 今月の第四間氷期

青い蝶Butterfly@alterEGOtatabibit・Jun 16

ちなみに、先ほど読み終えた安部公房の『第四間氷期』は日本最初のSFと言われているそうです。

青い蝶Butterfly@alterEGOtatabibit・Jun 16

安部公房の『第四間氷期』を読みました。やばい本でした。過去に現在を裁くことはできず、現在は未来から裁かれるものであること。予言機械が世界を量的で秩序ある数列に変換するのではなく、質的で渾沌とした価値観の対立が生まれたこと。

自分は現実の未来よりも現在の常識を守る保守派であるよう。

KJ@KinjiKamizaki・Apr 25

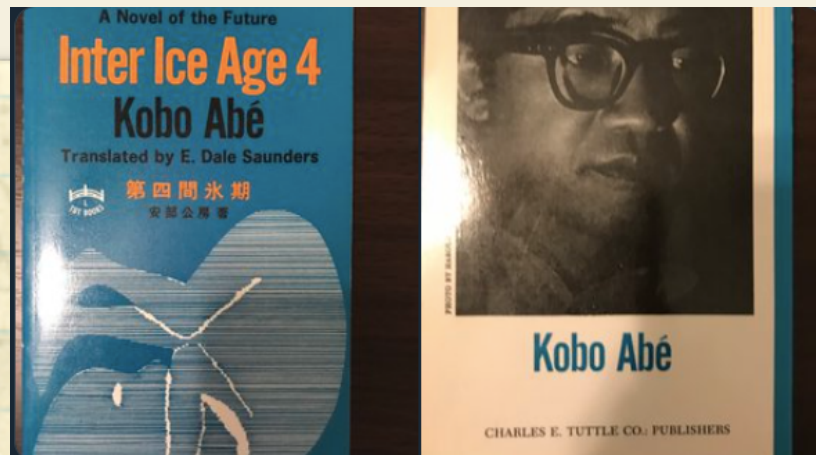
第四間氷期 1950年代に書かれた安部公房のSF小説。「予言機械」の開発から不可解な殺人、そして描かれる人類の未来…

やや急展開は多いものの、ダイナミックな物語展開は読んできて面白い。そして、予言と「未来」の意味を問うテーマは、今でも全く色褪せないと感じられる。

肥和野 佳子@lalahearttwit・37m

安部公房『第四間氷期』英語版持ってる。安部公房は米国の文化人の間でも評価高い。





### 今月の砂の女

週末の本読み@終活中@dev\_book\_read·Jun 14

安部公房「砂の女」

「八月のある日、男が一人、行方不明になった」で始まる安部公房の代表作。初めて読んだ著者の長編で日本文学に興味を持つきっかけになった作品。砂の穴の中に女と閉じ込められた男の話。今読んでも段違いに面白い。常識とか自由とか権利とか全てが白紙になる感覚が心地いい。

マメGreen book@mame3184·Jun 9

『砂の女』安部公房 #読了 同じようなことを反復する毎日。それは何処に逃げても変わらない。では、人はどうやって毎日を凌げばよいのでしょうか。

- ①毎日同じようだけど全くもって同じというわけでもない反復に、充足を見出だす。
- ②新種の虫の発見や留水装置の開発といった《希望》を設定する。

### 今月のカント

ハロー世界@Helloworld423·16h

安部公房とカントの作品を合わせて読んで、なんか物語の作り方が似てるなあと思ったら、案の定、安部公房がカントに影響を受けてたらしい。読んでいる作家同士の関係性が浮かび上がると、作品も二度美味しくなりますねえ

### 今月の大江健三郎

古義人@cogito\_kobo·Jun 13

安部公房と大江健三郎の仲がよくわからんのよな。文革の件で一度決裂してて、大江は「それから完全な仲直りはなかった」とか言ってるんだけど、『密会』の函文を書いたり、箱根の別荘に遊びに行ったりしてるんだよな。大江がめんどくさい人間であることは間違いない。

古義人@cogito\_kobo·May 4

何かの対談で大江健三郎が「安部さんを夢に見るときはいつもさかさまで出てくるんですよ」と言ったら、安部公房が「君、僕を愛してるね」と返したという話好きだな。

**今月のドナルド・キーンとの対談**

志兎鷲@Shitosagi・Jun 12

安部公房とドナルド・キーンの対談で、近松の心中ものを例に指摘されていることですが、人は『情熱』によって社会から逸脱し、『死』によって社会から許される。そう考えると、情熱を持って生きるということは、常に社会と対立する宿命にある。そういう強さがないと、情熱は守りきれない。

**今月の桃太郎**

想識 流名@Sohshiki\_Luna・May 13

めっちゃ面白いんやけど———。

#あなたのツイートから桃太郎を書く

昔々ある所に安部公房と岩波文庫が住んでいました。

安部公房は九州へ高い城の男しに、岩波文庫は満州へ読書会しに行きました。

岩波文庫が満州で読書会をしていると、テグジュペリテグジュ…

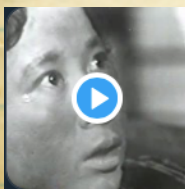


想識 流名の結果 - 🍑 あなたのツイートから桃太郎を書いたらこうなった! 🍑  
 あなたがよく呟く言葉から桃太郎風物語を作ります。(※長文となりますが診断結果をツイートすると画像リンクからアプリメーカー上で全文をご覧頂けます)  
 @appli-maker.jp

**今月の日本の日蝕**

ホッタタカシ@t\_hotta・May 13

安部公房が原作・脚本のテレビドラマ『日本の日蝕』（1959）もアップされていた。原作は短編『夢の兵士』で後に戯曲『巨人伝説』に発展。「共同体の正義」を優先する日本人の心性をえぐる傑作です。主役の大貫巡査は伊藤雄之助で、演出は和田勉。芸術祭奨励賞受賞。 <https://www.youtube.com/watch?v=GzRES-slGk>



50年前のTVドラマ「日本の日蝕」

昭和のテレビドラマ、なかんずく終戦から間もない1950年代の番組には太平洋戦争やその結果生じた人間性の歪...  
 youtube.com

**今月のR62号の発明**

ホッタタカシ@t\_hotta・May 12

安部公房『R62号の発明』のラジオドラマ版（1980）がアップされていた。

R62号＝佐藤慶、高水社長＝三谷昇、花井＝田島令子、草井＝草野大悟、所長＝小池朝雄、ドクトル＝中村伸郎

脚本＝山本清多（黒テント）、演出＝長与孝子（ラジオドラマ時代の安部と名コンビ）

<https://www.youtube.com/watch?v=NKuZv9OOhig>

うすい@読書垢@usui\_book\_・May 4

#読了『R62号の発明・鉛の卵』安部公房 はじめての安部公房。12の短編集。どれも絶妙にありえそうで、しかしあったらすごく嫌な状況設定が秀逸。人間・動物・物を等価値におき、既成概念を覆す手法に魅了された。これはハマりそうだ。次は『壁』『砂の女』あたりを読みたい。

### 今月のけものたちは故郷をめざす

岩波書店@Iwanamishoten・May 10

(承前) 安部公房『けものたちは故郷をめざす』 (<http://iwnm.jp/312141>) について  
「安部公房の原点ともいえるこの一冊が問いかけることを、コロナ禍の影響で国と国の往来が厳しく制限される今、改めてじっくりと考えている」

温又柔さん(週刊読書人5/8号より) ☞ <https://dokushojin.com/article.html?i=6997&p=3>

### 今月の山口誓子

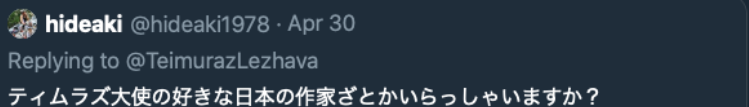
古義人@cogito\_kobo・May 10

朝日出版の山口誓子集の序文を安部公房が書いてるという事実にここ数ヶ月で一番驚いた。あの安部公房が序文書くのも珍しいし、安部公房俳句読むんだというのも意外だし、何より自分の中のまさかのところで繋がってしまった。

### 今月の駐日ジョージア臨時代理大使

ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア臨時代理大使@TeimurazLezhava・May 8

本命は夏目漱石、芥川龍之介。安部公房、中島敦、室生犀星なども好きです。最近の作家では村田沙耶香、朝井リョウが好きだが、選べるほど本を読んでいわけでもありません。大江健三郎は気になるがまだ。村上春樹は素晴らしい作家だが、もう少し泥臭い作家の方に嗜好は傾きがち。ただ羊は文学最高峰。

hideaki @hideaki1978 · Apr 30  
Replying to @TeimurazLezhava  
ティムラズ大使の好きな日本の作家ざとかいらっしゃいますか？

**もぐら通信(第三版)**のダウンロードは：<https://easyupload.io/dyyyau>

訂正箇所は次の通り：

P73：

改定前：図中に「天之常立神」の文字なし。

改定後：「天之常立神」の文字を入れる。

P77：

訂正前：手を規準・クライテリアの星と見立てて

訂正後：相手を規準・クライテリアの恒星(天之常立神(北極星))と見立てて

巻頭詩

(5)

肌よ

フィリップ・ラーキン

[翻訳] 岩田英哉

【原文】

PHILIP LARKIN

SKIN

Obedient daily dress,  
You cannot always keep  
That unfakable young surface.  
You must learn your lines—  
Anger, amusement, sleep;  
Those few forbidding signs

Of the continuous coarse  
Sand-laden wind, time;  
You must thicken, work loose  
Into an old bag  
Carrying a soiled name.  
Parch then; be roughened; sag;

And pardon me, that I  
Could find, when you were new,  
No brash festivity  
To wear you at, such as  
Clothes are entitled to  
Till the fashion changes.

## 【和訳】

肌よ、お前は素直な普段着だ、  
そんなお前なのに、その騙しやうのない若い張りを  
常に保つことができるとは限らないのだ。  
お前は自分の皺に倣（なら）はねばならないから—  
怒り、愉快、睡眠の皺の線に学ばねばならないから、  
これら数少ないとは云へ学んではいけない信号（サイン）にも

絶えず粗い  
砂を載せた風だ、時間といふ奴は、  
お前は厚くなつてしまひ、働いてたるんで  
土埃（つちぼこり）で汚れた、肌といふ名前を運搬してゐる  
目の下のたるんだ古い袋の中に入つてしまふ  
それなら干からびろ、ゴワゴワになれ、たるみたはめ

そして、赦してもらひたいのは、私といふ奴は  
お前が新品だつたに時には、  
お前を身に纏（まと）ふと云ふやうな、例へば  
流行といふものが変はるまでは  
衣類が其の権利を主張するやうな、  
手放しのお祭り気分には少しもなることができなかつたといふことなのだ。

## 【解釈と鑑賞】

全てのイギリス人がさうだとは言はないが、何かブリテン島に住む白人種の持つ皮肉や逆説といふだけでは単純過ぎる巧知といふものを此の詩に感じる。

お前のイギリス人観を一言で言つてみると言はれたら、煮ても焼いても喰へない奴らだといふのが私の答へとなるだらう。今の日本人と比較すれば、今の日本人は宮澤賢治の『注文の多い料理店』の狩人二人みたいに腹を空かせながら店の注文をきいてゐるうちに煮ても焼いても最後には喜んで喰はれてしまふだらうといはれれば、なるほど其の通りだとあなたは肯（うな）づくでせうから、彼我の違ひは、同じ島国と云つても歴然たるものがあるのです。

この詩を日本人の詩人が最初から日本語で書いても少しも面白い詩にはならないのではないかと思ふ。

冒頭の一行と二行を読むと、話者が肌に話しかけてゐる詩であることが解ります。

この詩には、日本語訳からは伺い知れないかもしれませんが（ここが訳者の苦心の為所）、なかなか複雑に掛け言葉や縁語があつて、凝つてみて、それは次のやうなものです。イギリス人が読んだらこれらを一瞬に感じて詩の奥行きは広がり、私たちが辞書を引き引き頭で理解しようとするのとはまた別天地があるのです。まあ、其の反対もまた然りでせうが。

第一連：

1. dress—lines—skin—surface
2. learn lines—forbidding signs

第二連：

3. Sand-laden wind—a soiled name
4. An old bag—carrying a name
5. An old bag—sag
6. work loose—sag

4の文字をみると、私は、ドイツならば、馬車に店の刻印を押した荷袋を載せた荷馬車がドイツの中世の姿そのままの市中を行く姿を思ひます。馬も人も働いてゐる。その袋には何々商会などといふ社名が押印されてゐるold bagであり、carrying a nameです。大陸と島との違ひはあれ、その姿は同じでせう。

その袋にある名前も歳月の中でsoiled nameになり、そのやうにする方の風もまたsand（砂）含みで、砂が積載（sand-laden）されて運ばれてゐる。これが3。

1はdress（衣装）にもline（縫い目）ありまた綾目あり、お肌にも皺（line）あり線刻（line）あり。

縫い目（line）を読むこと（learn）にも歳とることが必要で、中にはかうしちやいけないと解つてみてもさうせざるを得ないサイン（しるし）もあらうといふものです。さうして、皺が増えて行き、お肌は荒れて行く。衣装（dress）にも生地表面（surface）あり、お肌にもsurface（張り）あり。最初の3行はskinとdressの主客が入り混るかの如き観があつて、しばし意味を取りかねて行きつ戻りつするといふ愉悅のひと時でした。私は優れた詩の一行があれば、徒然なるままに、何飽きることなく日暮しすることができる。

5のsagは目の下のたるみで、これを袋と呼び、an old bagに掛けてある。これで、

6のwork looseの働いてloose（ゆるみ・たるみ）とsagのやはり目の下のたるみの同義関係が判ります。

といふやうに手の混んだ仕立てのSKIN（肌）といふ名前の衣装を身に纏つた巧知な詩でありました。

日本人が普通和歌などを読んで感じることのあるやうな手放しの感情や情緒といふものはありません。

[註]

フィリップ・ラーキン（Philip Arthur Larkin, 1922年8月9日 - 1985年12月2日）は、イギリスの桂冠詩人。これ位修辞に巧みでなければ、女王陛下が桂冠詩人の名誉を授けることはないのだと実感します。 [<https://ja.wikipedia.org/wiki/フィリップ・ラーキン>]

全集未収録作品

シナリオ

『億萬長者』

分載 (3/4)

安部公房 他

37 焼酎の地下蔵室。  
「いやなりか。あゝあつた〜。千円札が一枚あつた。」

ぼんちろうもぐらら電灯の光りの下で、おぼろげに袋夫婦とここは勢ぞろい、館と車、風を敷いたまひのまて帰ってくる。

館「まあ〜今日はカイセン祝だ。飲んで、食って、大いにはやちういやねえか。」

袋「立ち上りて〜」猫は？

館「荷物をあげて内のヤマンした骨のかたまりを取らねえか。」とあ、これだ。

袋「何んだい、こりゃ、骨ばかりじゃなりか。」

館「なあに、あの猫はヤせてこよう。ヤせておくせに妙に重かた。骨の太い猫だつて、ニマシヨ。」

「ぶ〜顔を凝見させる袋夫婦。」

袋の妻は「でもねえ、こんなにおどくならちや、もうこれくんで帰らなうよ。」

館「しつこくねえでもしつこくねえか。今日はこの骨をストーブにして食うちまおしよ。明日、おれが行く奴

さんたちを差し飛ばしちまうから、今晚はここに泊って行きたまへよ。」

車「陽気なハッキンで、「オ行つて新たまが〜」と〜からあな。」

特選龍宮 十三行

31

はり出して行く。

38 館を先頭に葬儀屋に向き歩いて行く袋夫婦と車。館「オモチやまきま〜カチ〜」三つせなから、葬儀屋の中へ突進する。

まだ、ゆちうしてした家族たち。おぼけまなごをこすりながら息子のA、B。

「かんた、〜」

館「こいつは、大それた。二万カウソトの放射能だ。りた、あんなたち、自殺して葬儀屋にまごきだんなり。」

息子のB「なんでえおめえ。」

館「私も放射能研究所のもんだかぬ。こんな家は始めだ。うんちぶつとつな家にすんでいるなんて全く気がしれぬ。野放しな方が、まだましだ。ああ、原〜」

「車の力をかりむして、この分せや、あんなち、三日とまきこはおれまじいなあ〜。」

車「ふん〜」

「うばいした家族たち、コソコソと相談ははじめる。」

父親「しつこかたう。どうも出て行つたかみよさささうだ。こめい、しやくにさわるじやなりか。行きかけの駄賃にこの研究所の奴らに皆、ブンなぐつちまわつてや

なりか。な、みんなとつたぬ。」

館「あちこで車のうしろに廻る。」

特選龍宮 十三行

22



ボクシングのまねをして、おき上  
 こきた息子がB、車を置いて「カ  
 めらう。息子がB、思いきって車に  
 とひかかると、車、息子がBをひかえ  
 す。B、尻も打ちつけてたおれら。  
 それを見ている息子A、  
 息子A「提案、それよりも一刻も早くこの女を  
 とせ。」  
 家族たち「奥義なし」  
 家族たち「いよいよ、手あがり次第  
 のものを棺桶にバガバガ、かついで  
 出ようとする。棺桶、その棺桶にオ  
 モチを向けカチカチ、なぐさし、  
 棺「だめだ、その棺桶には、三方カウ  
 ンター放射  
 能がある。」  
 あらこ棺桶をほりかき息子  
 A、B。  
 息子A「食をゆいひさし」ヤンぱり、  
 あり奴をなぐさ  
 しておれ。」  
 棺「急いで自分の顔はオモチを  
 あてカチカチとたたいて、  
 棺「あつ、とりや大乗だ。おれが  
 カチカチとたたいておれ。」  
 息子たち、あらこ、外に逃げ去  
 る行く。残り家族たち、いそい  
 そ、逃げ去る、行く。それを見送る

特選 龍宮 (十三行)

袋「それ、ありがた。おめえの子エも  
 ばかにならぬえな。とこで、おめえ、今日  
 は日休んじまうたん。だからこれ  
 から倍の仕事をこなさあたらぬえ。」  
 棺「いや、親方。おれは今日から  
 ひまをもらひていんだ。一オ、で  
 りかい仕事を始めなさい。ならぬ  
 え。あなたもえんが、行くてわけ  
 いやぬえ。おれも親方にはすうか  
 り世話にならぬえ。だからなあ。マ  
 ア、見ころよ。おれの仕方で親方の  
 店も大ハンツツ。小僧の三人も  
 ちとこバリアれるやうになるぜ。」  
 袋「そうかい。まあ若者、い  
 こことと、ならぬ。さうそうと、  
 この家にはほんとおめえ、そん  
 には放射能がつかぬか？」  
 棺「笑う」「おめえ、いけぬえよ。  
 オモチやなりか。袋「フーン」  
 棺「いけぬえ、いせせ。こいつか  
 オモチやだつては。それからさう  
 だ、こいつをすてちんあげてくれよ。  
 (百円札三枚をさし出し)「そ  
 ここのオモチやもつ甘本、あ  
 りたのんでくれなりか。ゲンバク  
 作母でいそいしてことだけとぬ。」  
 棺「ゲンバクだつてさ。」  
 袋「ん、どうなんだよ。あの子は、  
 ロシマの孤兒だつての。ゲンバク  
 作母なんかに夢中になつてさ。」  
 袋「百もそんなものは外にはあ  
 まりの云ぬえ方がいそいそ。」

特選 龍宮 (十三行)

車「あの子にゲンバクをふんで、さんふおオ  
ンロレイものはやめさーぬかいーぜ。

おじさん」

館「まあ、い、からま。とにかく、あのオ

モチヤもあと十ほど頼んだぜ」

39 すっかりきれいになった。舞台の焼跡

せうせと 整理して回っている

る車、館、内のそかにカン板

を立て、いる。

「放射能研究所」

40 夜一軒のバラック

「女の家の侵入家族」

父親「どうぬこり家は」

息子A「進めて来た家中

を覗き込む

息子A「戸を引張り開ける

息子A「何だいこれ 託児所かい」

41 家の中

おかしさんと子供十人

おかしさん内職中

子供はやっと違い始めぬ

赤ん坊からよちよち歩き

の子供位迄。

特選龍宮 十三巻

入り込んで来た。家族達  
母親「まあ汚い早く掃除してもう

帰してわらって頂戴」

おかしさん「何云ってるんぬい、ここの他にど

こに家があるもんかい」

息子B「小母さんのことぢやないよ、このあづ

かっているかきどものことぬ」

おかしさん「何云ってるんぬい、さんお家の

子だよ」

「家族達笑ふ」

息子A「へ、全部自分の子供だって、

そんな馬鹿な話あるもんか、この家

はキッと託児所だよ、託児所

であるかホいか、一戸主的に決議

してサようぢやないか託児所を

と思ふものは手を奥手引して見て

くれ」

「家族達一せいで手をあげ

る」

息子A「託児所かと思ふものは手を

奥手引してくれ」

おかしさん一人手をあげる

息子A「そうサ、六村一だ、ぢやんとこ、

は託児所ぢやないか」

父親「所がある、本、お留のことば、こ、は我々の

特選龍宮 十三巻

家だといふことなんだ、所がこのおかみ  
 さんはその我々の家をむだんで使って  
 託児所にいっていった。早速罪金を  
 拂って出て行ってもうおう。

家族たち「(手をあげて) 奥様さー」  
 息子B ホクレینگグと奥様さーおがう  
 「さあすぐに出て行、てくれ」

42 父 番  
 ヒステリックにかけこんで来たおかみさん、  
 「ぼんぼんたう あんまりだよ  
 しやーやんの家り入り込んで来て託児所  
 だとか俺の家だとか勝手なことはかり云やがう」

巡査 「まあまあ」  
 おかみさん 「さあすぐに連れてやつらとあつぱうそ下さま。  
 「まあ、法律的にえつてもこつは奥にめんどう  
 な問題下んたもあんまりこつぱうことには  
 からゆりにならんこつがいよ」

おかみさん 「そんな馬鹿な」  
 巡査 「まあ、よくあるこつだ」

43 露 路  
 おかみさんを先頭にいざいざ歩んで行く  
 不 館 車

44 バランクの前

特選龍宮 十三行

ぞろぞろ出て来る家族たち、その入口  
 の前で、オマケヤカチノ、なういな  
 がう、えつている館。  
 館 「さあ、大波だー。三カウントだ」  
 館にうみながらジジ、出て行く  
 家族たち。

息子A (館をならみながら) 「チエン、疫病神め」  
 父親 「今度はどこにしようか」  
 母親 「こん中には引越しかやかなやらない、  
 今度はすつと落着ける所へ行ましようよ」

45 別な軒のバンク  
 中を覗き込んでいる 息子A

息子A 「アアア、こつけ子泣ばかりだ」  
 母親 「ババ、早くー」

館 「さばさかぬけ、前に出てオマケヤ  
 をバンクにつさつけなごり、  
 「やあ、大波だこつは五カウントに剣へ  
 等つただけで危険だ。」

息子A (ゴキョトしてどびりり、さきながら) 「ナエツ  
 うせやんね」

46 本のぼつちの露路  
 オマケヤを四方八方に振りまわしながら  
 中をいぶ館

館 「さあ、こつは本向中は射能だらけだ、

特選龍宮 十三行

いへ行つた？人目の注める所はありやない、あつ少し頭かくらくして来た様だ

館を見つめて、たぬらいかち線路際

にまゝでいる家族たち、家族たち

顔をよせ、何かをこぞく語し、

多分に平らみけて異議なくと叫ぶ

線路をこえて向うの方へ行つて

また、その小を見送つて

館

「ごまア見ろ」

「ごまア見ろ」

振り向くと後には不安げな顔をした本向の住人たちが館と車の方を並び、之に楯に思ひめぐらさる。

住人A

住人B

館

「あ、館さん、ほんとは放射能があるか？」

「ほんとにまぎてあらねんのか？」

「(怒ばいして)」「いや、もうおけやない、つまり計算数だけはいや、いや、勿論この計数

かんは、本物だが、つまり、小は要するに、

何んともないんだ、だから安全にして(家)

歸つて」

住人C

住人A

住人B

住人E

「ぢや、ちよつて家も調べておくれよ」

「(おきかへ引替つて)」「はあ、家も調べておくれよ」

「(おきかへ)と云つて、住人にちよ、

「大敵でも、名をいさむも新海でも原子炭

か、降つてさういふことだぜ」

「金くさかえちやねえ」

立ちすくむ  
ピラの文句

日本中に灰がふっっている!!  
気分の悪い人はすぐ研究  
所へ!!



その男のピラを覗きこみ、さか  
ら通りか、った鏡、らん

「あり、鏡オ、と、い、小、娘、を、取、  
り、あ、り、ま、せ、ん、か、私、の、妹、さ、ん、で、す、

↑ 原子ばくだんが、おちた時  
けど、原子ばくだんが、おちた時

広島にいたんです。  
田か、は、げ、り、首、を、振、つ、て、逃  
げる、様、に、ま、ち、ま、る、。

喫茶店

その外も今もサー、と、歩、い  
て、い、る、館、香、太、今、も、た、ん、で、  
中、へ、入、つ、て、く、る、。

(むろん、雨、も、ど、降、つ、て、い、ま、い、)  
館、香、太、オ、モ、チ、ヤ、を、空、中、に、  
か、ま、こ、ー、大、声、で、ま、う、

「や、れ、く、ど、う、や、ら、こ、こ、に、は、放、射、能、

はなきそうだ（変な顔をしている店員にむかつて）  
 全くがつそうな世の中だね、朝から晩までビギニの灰  
 がふりつづけているこんな時に今もなした外を歩い  
 ているなんて命しらすの人間どもだ（息からオモチャ  
 をつき出してカチカチならし）空は八万カウン트의  
 放射能がふつっている」。

騒然となる店の中、

48 ビラをくはっている車

49 電車の中

今をたぐんで飛びのつて来たタテ

タテ（大声で）「やれくく外には九万カウン트의放射能が  
 ふつっている（オモチャをつき出して）おや、こゝにも  
 五六千カウントはあるぞ、誰かたっぷり放射能を体に  
 ぬりつけているやつがいるのだな」。

動き出した電車とまる  
 電車の中騒然となる

50 焼跡の見える高台

その石段を上から下迄延々と並んで  
 いる焼跡のニセ放射能研究所をお  
 とづれて来た老若男女のえんく  
 たる列。皆原子病にかゝつていると  
 思い込んでいるのでヒヨロくくよ  
 ろめいている。

41

51 焼跡の小屋の前

よろめきながら出て来た客の一人、入口に  
 立っている車「次」をうながして「百円い  
 たぎます」。

百円拂つてよろくくと中へ入って行く客

一 小屋の中

机の向うにタテ

タテ「どうですか、頭が痛みますね」

客「ハイ」

タテ「気分が悪いですね」

客「はア」

タテ「死んだら困りますか」

客「そりゃ困ります」

タテ「それちあちよつと目を見せて下さい。（虫めかねを取  
 り出して客の目を覗き込む）ちや次にこれに唾をぬ  
 りつけて下さい（ガラスの小さなカケラをさし出す）  
 ちや又明日」

客「はア」

よろくくと帰ろうとする。それをよび止  
 めて、

タテ「ところで、ちよつとお待ち下さい、あなたもつとホ  
 金をおもちですか、」

客「はア」

タテ「それちや申上げますが、今日などは十万カウントほ

42

どの灰かぶつてゐる。この分ぢや向もなく人間がゴロ  
ゴロ死に出すにちかいない、そうするとま手困るのは何  
んだと鬼います」

客 「はア」

タテ 「棺桶ですよ、今に棺桶の不足で大変なことになるに  
ちかいない、それで私もはお客さんのサービスにこ  
やつて（わきに坐つてゐるフクロの方を指さし）そう  
き保険にかゝつておけは棺桶は優せんに確保され  
ます」

客 「はア」

タテ 「どうぞ」

客 「はア」

53 團の妻の 錨 仙子の家

團と仙子

團 「今日はこれだけ預つておくれよ、千二百万円あるか  
らな」

仙子、小切手らしいものを受取つて、床  
の向の掛軸のうらの金庫の中へしまひ込  
む、

仙子 「私達、金持ね」

團 「うれしそうに」そうだ、金持だよ」

仙子 「私達億万長者かしら」

團 「あゝ億万長者だ」

仙子 「私自動車一台買つていゝかしら」

團 「運転手なしなら買つてもいゝさ」

仙子 「あら、どうして」

團 「運転手なんて、ろくな奴いないかしら」

仙子 「まあ、あんなたつたらやきもちやきぢやね……、  
ところであなた、私放射能に少しやられたらしい  
のよ」

仙子

團 「な、なんだつて」

仙子 「ふところからビラをとり出しながら」

「私気分が悪いのよ」

團 「（ビラをのぞき込みながら）「ふんふんどう（おけ  
ツトからタテからうぼつたオモチャをとりに出し、仙子  
の方へむけてオタンを押すとオモチャカチカチと  
なり出す）」

仙子 「まあ！」

仙子 「まあ！」

團 「こいつわ大変だ 俺も少し気分がわるくな  
つて来た。」

二人おびえたように顔を見廻せる、

石段の前に走つて来た團の車

車から今をさして走り出して来た團の

秘者の疊 麻子、

車の中てくつたり死んだようになつて抱

き合つてゐる團と仙子、

行列の後についた麻子、一番後、男

と交渉しはじめる、

麻子 「おえ、十四で順番讓つて下さるかい？」

十四受取つて、客場所とづる、麻子と

55 石段の全景

前ノ男に同じ交渉をする。

延々とすんでいる行列、その列の中を  
どん／＼前へ進んで行っている麻子  
の介

56 小屋の中

よろめきながら入って来た 田と仙子  
ハツとして立上るタテ

タテ 「あ、旦那」

田 (フラ／＼しながら) 「気分がわるい、」

仙子 「頭が痛い」

ふと田 我に帰って、

田 「ヤン こいつはおれの家だ、早く出て行けつて云  
つたぢやないか、まだこんな所でウロ／＼して  
いるのか、明日から材木をはこぶんだぞ、さア今  
日中に立退いてくれ」

タテ 「ハア 旦那 (あわてて百円返しながら) ……

つまり、こいつは 社会事業でして」

仙子 (フラ／＼と田の腕につかまりながら)

田 「ねえ私気分がわるいっていつてるんぢやないの、  
(思い出したように) 「さあ君、何ぐ／＼してい  
るんだ、はやく診さつしる」

タテ 「ハア……。……さあでは目を、

特選龍宮(千三巻)

45

田 「よましい(名刺をとり出して) 近事はここにまで  
これたまへ、明日十時、何しろ明日は君はここに  
ない筈なんだから」

館 「手ア旦那」

田 「……、わしは無理はいわない、君達力やってい  
ることは不法行為ではあるが立派な社会事業だ  
私は決して君を警察に引渡さうとはいわん、それ所  
か黙って、しかも只で出てゆかせてあげようとい  
うんだ、

57 同じ場所、夜

タテ金を勘定しながら

館 「弱ったな、あの田という男、一体い／＼で話  
をつけるつもりなんだらうな」

車 「リチ／＼とおどかしらうか」

館 「何、三日辛捧してくれりやな、どうせ二人な  
仕事は四日とはつ／＼かないんだ、四日目にはおれ  
てしまふもんなんだ」

車 「えッ、」

館 「だって おめえこれオモ手やたせ、

車 「ぢや おめえ こりや サヤぢやないか」

袋 「そうだらう、そうだらう おれもてつきりそうた  
らうと思つていたんだ、いやだよ、俺は、俺はかた  
きにやりてえんだ」

館 「ちエッ 俺も長者には、には敵しなけ、おれはなら

特選龍宮(千三巻)

46

「いんだけ、金、金、金なんだ、  
車（不安ゆに）「だかよ、おめえ、ほんとに灰がなつ  
てるのかな」

館（不安げに空を見上げて）「ふん、そのうち金が出  
ましたら 本物の計数管を買おうぢやないか」

58 団の事務所

団の秘書 麻子カストップウオッチを  
持って三分間ごとに面会人を連れて  
いる、

団の机の前

面会人「つまりその所が、要するに私どもの……」  
団「でそいつは、あんたが私に金を下さる話かね、

それとも 私があんたにさしあげる話かね」

面会人「そいつは 先生つまりキアアンドテイクの精神  
でして」

館 「ふん、つまりあれだね、  
面会人「はア あれで」

チンと鈴がなる 椅子カコトンとばつ  
れる 面会人、あやうく尻もちをつき  
そうになるかなれたこしつきで立直  
り 頭を下げて出て行く、

「お次、鏡さん」と云う麻子の声、  
鏡らん入ってくる。

らん 「先生、私同郷のもので鏡らんと申しますか  
実は妹の鏡すてというものを御存じないかと思

47

「いまして」  
団 「あ、その話は、あんたが私に金をくれる話かね、  
私かあんたに金をあげる話かね」  
らん「い、え別にそんな」

チンと鈴がなって椅子かはづれる。  
らん驚いて机にすがりつく。

「お次、館さん」という秘書の声、館  
入って来る。

団 「どうも昨日は、」  
館 「その話はあんたが私に金をくれる話かね、私かあ  
んたに金をあげる話かね」  
団 「え……？」

「三分間」

館 「はア……放射能研究所の……」  
団 「あッ、そうか失敬（杖りで手帳をくり返から）  
どうです、私の病状は？」

館 「大したことはなさそうで」  
団 「というと？」

館 「つまり大したことはないが私どもの差上げる薬  
だけはすつかりとつけておのみになつた方が」


団 「ふん、有難う、そうしよう、」  
館 「はア 有難うございます」

団 「で、もう立退いてくれたんどうね」  
館 「はア、つまり私共社会事業とりたしましては、」

団 「だから これまでの不法無行も大目に見てあ

48





## 『周辺飛行』論

(28)

3. 『周辺飛行』について(21)

鴈魚(「箱男」より)——周辺飛行25

岩田英哉

目次

- I シャーマン安部公房の秘儀の式次第(一般論)
- II シャーマン安部公房の秘儀の式次第(個別論)
- III 何故安部公房はシャーマン安部公房の秘儀の式次第を墨守したか

\*\*\*

### I シャーマン安部公房の秘儀の式次第(一般論)

『箱男』論～奉天の窓から8枚の写真を読み解く～(もぐら通信第34号)より、シャーマン安部公房の秘儀の式次第は、次のようなものでした。

1. 差異(十字路)という神聖な場所を設けて、
2. その差異に向かって、また其の差異で呪文を唱えて、
3. その差異に、存在を招来し、
4. 主人公と読者のために、存在への方向を指し示す方向指示板たる立て札を存在の十字路(差異)に立て、または案内人か案内書を配し、
5. 存在を褒め称え、荘厳(しょうごん)して、
6. 最後に、次の存在への方向を指し示す方向指示板たる立て札を立てる。

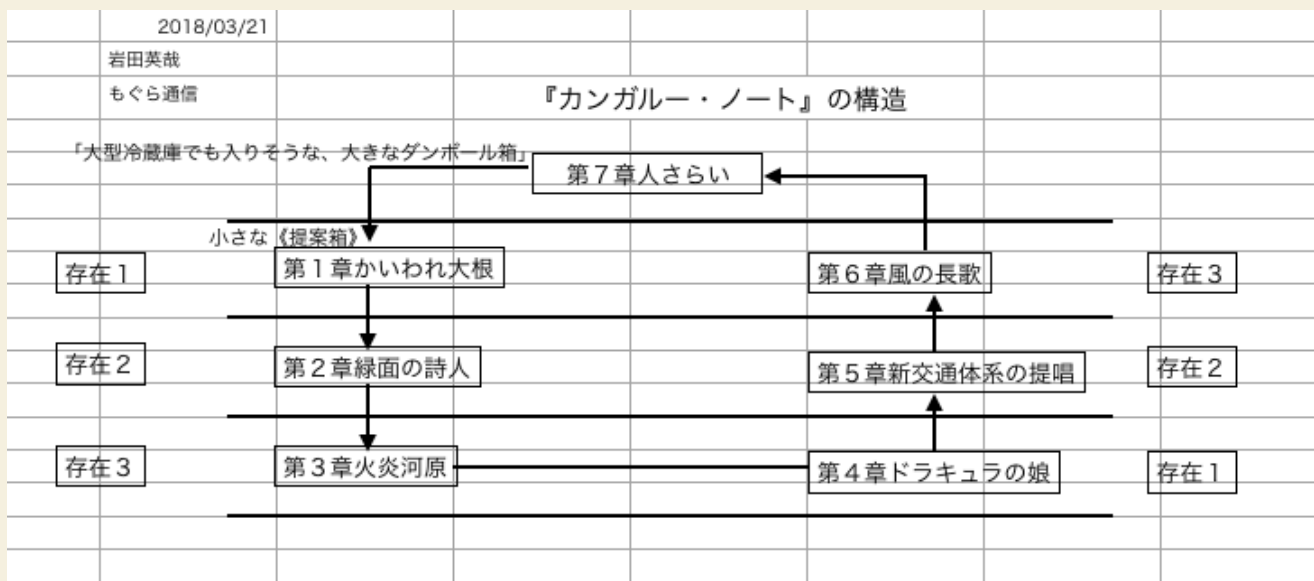
という、このような、安部公房の秘儀の式次第でありました。

安部公房の読者が、安部公房の作品を読むための便覧として役立つように、もう少し簡略にしてお伝えすると、

1. 差異を設ける。
2. 呪文を唱える。
3. 存在を招来する。
4. 存在への立て札を立てる。
5. 存在を荘厳(しょうごん)する。
6. 次の存在への立て札を立てる。

ということになります。

そして且つ同時にではなく空間的に一体となつて、安部公房の作品群には範疇を問はずに存在の三階層といふ三層構造があるといふことを併せて考へて下さい。上記のシャーマン安部公房の秘儀の式次第に加へて『カンガルー・ノート』論に於いて纏めた「『カンガルー・ノート』の構造」図を再掲します。この三階層の各階層でシャーマン安部公房の秘儀の式次第は繰り返される。



『カンガルー・ノート』は全部で7章からなつてゐる。この『贗魚』の舞台は全部で10の章から、正確に云へば、一幕十景の構成になつてゐる。〔註1〕

## 〔註1〕

次の「周辺飛行26」に「(前回の「贗魚」のうち、第七、八景を、それぞれ次のように改訂した。アドリブを積み上げてみた結果の変更である。)」とあるので、これは一幕物といふことになります。

一幕であるといふ意味は、安部公房の場合は全体で1、即ち存在の舞台であるといふ意味です。そして、この存在を構成する等価の部分(であり且つ全体である此の部分)は互ひに交換可能であるやうに作劇してゐるといふことを意味してゐます。即ち、この舞台の構成は、初期安部公房の特に十代に書いた複数の連(スタンザ)から成る詩作品と同じ考へ方、同じ論理、同じ作り方で作られてゐるといふことなのです。1970年代から安部公房はリルケと自分の詩の世界へと回帰した、即ち存在または存在論への回帰であるといふ私の仮説は、ここでも、正しいものと思はれる。〔註2〕

## 〔註2〕

「安部公房の人生表」を再掲します。ダウンロードは：<https://www.docdroid.net/myxnpyx/v4-pdf>

2015年4月5日、5月2日（作成岩田美哉/もぐら通信）

安部公房の人生表

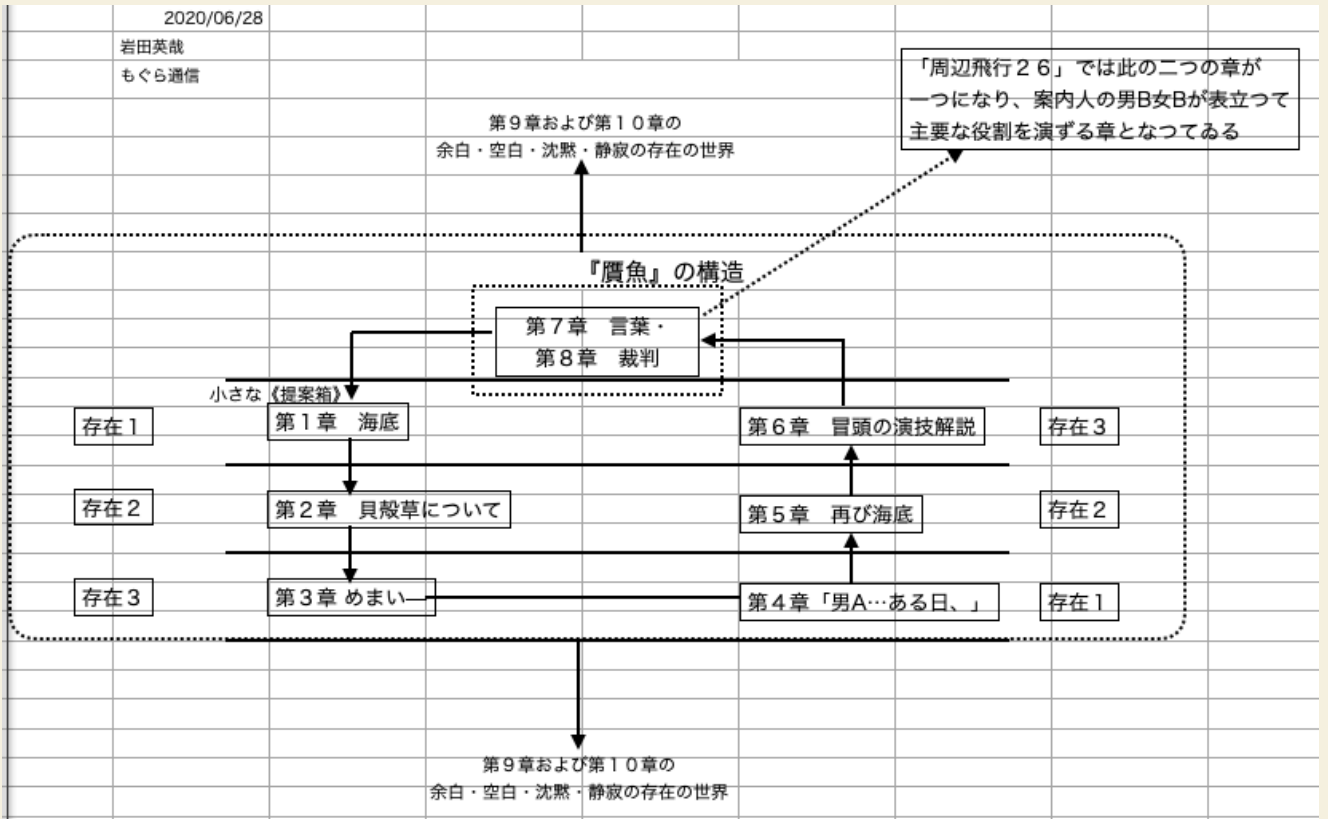
PHASE	PHASE 0	PHASE 1	PHASE 2	PHASE 3
存在	子供（未分化の実存）であった	存在の中での隠棲	存在からの出発	存在への回帰
文学の領域	奉天の意の時代	詩人の時代	散文家の時代	
期間	子供時代	存在に棲んだ10年	前期20年	後期20年
年代	1925-1940	1941-1947	1948-1970	1970-1993
年齢	1歳～15歳	16歳～23歳	24歳～46歳	46歳～68歳
詩文と散文	奉天に住んだ15年	詩人であった10年	詩人から散文家になる20年	散文家から詩人に回帰する20年
国家と社会	日本の歴史上あり得ない圧倒的に幾何学的な町奉天に住んで、成長した10年	国家や社会とは無関係に、現実の時間の存在しないリルケの純粋空間に棲んでいた10年	国家と社会の中へ出て行く20年	リルケの純粋空間へ回帰する20年
劇場観	奉天の幾何学的な世界が劇場であった	現実を劇場と観た10年	現実を劇場と観た20年	存在（関係概念）を劇場と観た20年
存在と社会	奉天の意と自己のみがあった	存在と自己のみがあった	社会的関係の中に存在を求めた20年	存在（関係概念）の中に社会的関係を求めた20年
主要な作品	a. 詩『夜』 b. 詩『風』	a. 問題下詩に拠る肯定の批判（1943年） b. 10代の詩群 c. 詩と詩人（意識と無意識）（1944年） d. 無名詩集（1947年）	a. 終りし道の標へに（1948年） b. 壁（1951年） c. 砂の女（1962年） d. 他人の顔（1964年） e. 燃えつきた地図（1967年）	a. 箱男（1973年） b. 密会（1977年） c. 方舟さくら丸（1984年） d. カンガルー・ノート（1991年） e. 飛ぶ男（1993年） f. ウェー（新どれいり）（1975年） g. 案内人（GUIDE BOOKII）（1976年） h. イメージの展覧会（1977年） i. イメージの展覧会III（仔象は死んだ）（1979年）
算数の世界の幾何学が好きであった	中学校時代にエドガー・アラン・ポーが好きになった			
ポーの話が尽きると、激発に自分の創作歴をした（仮説設定の文学概念の萌芽）				
世界文学全集と戯曲全集を読破した				
主要な作品の主題	a. 月の光（影）の反照する超越論的存在の部屋と異界からの呪文の声（言葉）の関係 b. もぐら感覚である触覚と、その触覚から発せられる呪文（言葉）が風（移動体）を招来するという自覚	a. 閉鎖空間からの脱出の方法 b. 存在、未分化の実存、言語（言葉） c. 詩と詩人、意識と無意識 d. 未分化の実存、無名であること、言語（言葉）	a. 存在、未分化の実存、存在象徴 b. 壁（＝媒体（関数））と存在 c. 女の中の存在 d. 顔の中の存在 e. 地図の中の存在	a. 存在の中の箱 b. 存在の中の密会 c. 存在の中の方舟 d. 存在の中のノート e. 存在の中の飛翔 f. 存在への方向を示すウェー（案内人） g. 存在への方向を示す案内人 h. 存在と変形の形象（イメージ） i. 存在と変形の形象（イメージ）

ですから、あなたが此の10の章のどれをどの順番で入れ替へても一つのまとまりある戯曲と舞台が生まれる。

さて、『カンガルー・ノート』の存在の三階層図に合はせて、『贗魚』の存在の三階層図を作成してみませう。それぞれの景に作者は名前をつけてくれているので、これを使ひます。

- (1) 1章：海底
- (2) 2章：貝殻草について
- (3) 3章：めまい――
- (4) 4章：無題。しかし「男A ある日、一匹の魚が、人間になった夢をみた。」が見出しとしての存在への立札
- (5) 5章：再び海底
- (6) 6章：無題。しかし冒頭の演技に関する解説が、小説『箱男』の冒頭の箱製作マニュアルが存在への立札（案内人）であるのと同様の役割を果たしてゐる。
- (7) 7章：言葉
- (8) 8章：裁判
- (9) 9章：無題
- (10) 10章：無題

結論を最初に述べると次のような構成になってゐます。



上掲「『贗魚』の構造」図に「「周辺飛行26」では此の二つの章が一つになり、案内人の男B女Bが表立って主要な役割を演ずる章となつてゐる」と右上に註したやうに、表立っては『S・カルマ氏の犯罪』に典型的であるやうに、安部公房にとっては言葉と裁判、即ち抽象度を上げていふと言語と裁判または言語と罪と罰といふ主題は尽きることはない主題なのです（『砂の女』のエプグラフ「罰がなければ、逃げるたのしみもない」）。おそらくは此の主題の提示のあり方からいつても、また十代の安部公房は『地下生活者の手記』といふ人間の在り方からいつても（例へば『方舟さくら丸』）ドストエフスキーの愛読者なのであり、表立つての言及が少なければ少ないほどに安部公房にとっては本質的に重要な藝術家が此のロシアの文豪なのです〔註3〕。

〔註3〕

安部公房とドストエフスキーの関係については『安部公房の変形能力（10）：ドストエフスキー』（もぐら通信第12号）をご覧ください。また、安部公房の次の発言がある：

「海外文学の影響

作家になろうと決意するずっと前のことですが、ドストエフスキーとポーの二人の作家には非常に感銘を受けました。日本人作家の多くがおそらく同じ経験をしているでしょう。二人はプロットやストーリー展開の名手で、読者を興奮させる達人です。

私は、ポーが探偵の役柄を自在に生み出すさまに民主主義の伝統を見ました。一方でドストエフスキーのテクニックはギリシャインワガその源であり、多くの国で人気を博していますね。」

（〈安部公房は語る〉『ニューズウィーク』のインタビューに答えて：全集第25巻、372ページ上段から下段）

また、成城高校時代の哲学談義を親しく交はした友中埜肇によれば「当時の安部は「解釈学」という言葉をむしろデカルト的な懐疑の方法に近い意味に解していた。そして世に横行しているすべての既成観念やイデオロギーを徹底的に批判し、常識の固い地盤を打ち壊すことを試みていた。（これはあるいみで彼の思索を生涯にわたって貫く方法でもある。）ここには彼が既に深く読み込んでいたニーチェとドストエーフスキイ（とくに『地下生活者の手記』）の強い影響があった。そして私も彼の驥尾に付して同じことをやってみようとした。私たちは懐疑や批判を怠って出来合いの思想に安住する連中を（大哲学者たちを含めて）ドストエーフスキイにならって「大歓喜」と呼んで罵倒した。」（宮西忠正著『安部公房・荒野の人』36ページ）

## II シャーマン安部公房の秘儀の式次第（個別論）

今度は、この戯曲をシャーマン安部公房の秘儀の式次第に拠つて読み解いてみませう。さうすると、次のやうな戯曲の次第になります。

### 1. 差異を設ける：第一景：海底

海は汎神論的存在の世界である。其の差異は次の二つ：

- (1) 空間的な差異：「七つの「フジツボ」が不規則にちらばっている。」
- (2) 時間的な差異：「それぞれが、低い心臓の鼓動に似たりズミカルな音をたてている。」

そのあと「下手から、海底にすむ雌の「ゴミムシ」が、コミックに跳ねながら登場。しばらく、「フジツボ」の間を縫ってまわる。」とあるやうに、雌の「ゴミムシ」は空間的な隙間（差異）である「フジツボ」の間を縫ってまわる」といふのは、丁度『赤い繭』の餓えた若者が自分の帰るべき家を探して家並みの隙間を死ぬほどに餓えに耐えて彷徨ひ歩く冒頭の情景と同じである。勿論、此の短編小説の例に限らないが。

ト書きに、「「ゴミムシ」たちは、防毒マスクをつけ」てみるとあるのは、隙間を縫って廻るといふ行為が死ぬことを意味するので此れを防ぐための形象（イメージ）です。この戯曲の副題を思ひ出して下さい。副題は「言葉によるイメージを舞台化するところみ」といふのでした。このやうに安部公房は言葉、即ち小説の形象（イメージ）を舞台化したのです。そして、この試みが安部公房スタジオであつた。

### 2. 呪文を唱える：第二景：貝殻草について：存在 I

「とつぜん「フジツボ」たちが跳ね起き、クロスにな」つて合唱する「貝殻草のにおいを嗅ぐと魚になった夢を見るという。」といふ一行の文の分割的・分担的合唱が「言葉の断片をボールにして、バレーボールに興じはじめる」とあるので、このバレーボールといふ運動のボールのやりとりといふ繰り返しが呪文になつてゐる。呪文といふ言葉の形象を求めてバレーボールといふ運動的な繰り返しに一行の文を入れたといふ方が、安部公房の考へた発想の、創造の順序であるかも知れない。

この第二景で重要なことは、この景の最後に、以上7つの「フジツボ」たちの中から男女そ

れぞれ一人が「防毒マスクを外し、それぞれ女B、男Bとしてコロスに参加する」といふことです。防毒マスクを外しても生きてゐるのですから、二人一対の男女Bは（何故二人一対と云へるかといへば、ともにBと呼ばれてゐるからです）、存在になつたといふことを意味してゐます。さうして、この男女Bは、そのまま存在への生きた有機物の立札、即ち案内人としての役割を演じます。従ひ、ここから此の景の最後まで科白は此の二人の男女が主たる科白の演者となつてゐて、その科白が小説『箱男』からの引用である貝殻草が「石積みの斜面の、隙間という隙間」から生えて来て隙間を埋めてゐるといふ科白なのです。

そこで此の景を存在1と名付けることにします。

存在の男女Bが此の貝殻草の科白のやりとりをしたあとに「すぐに続けて、前と同じ言葉のバレーボールが繰返される」のは前記の通りに同じであるので、これは存在を呼び出す呪文であり、この呪文によつて存在が招来される。小説の主人公が意識を失つて無意識の状態になり全てを忘却して意識の壁を突破することができ、再び覚醒した時には変形・変身した姿になつてゐるのは『バベルの塔の狸』のアンテン君の場合に限らぬことは読者ご存知の通りです。

といふわけで、次の景は「めまいー」と題されてゐる。

### 3. 存在を招来する：第三景：めまいー：存在1.1

めまいはアルカロイドといふ化学物質によつて引き起こされる。〔註4〕観客席にゐて此の芝居を観てゐるあなたは更に存在を接続する階段を地下に降りて行く。この一層下の存在を存在1.1と名付けることにします。この下降といふ言葉の形象を、次の二つの舞台化によつて実現してゐる。

- (1) 俳優の動作による下降の実現
- (2) 俳優の言葉（脚本では文字）による下降の実現

〔註4〕

<https://ja.wikipedia.org/wiki/アルカロイド>：

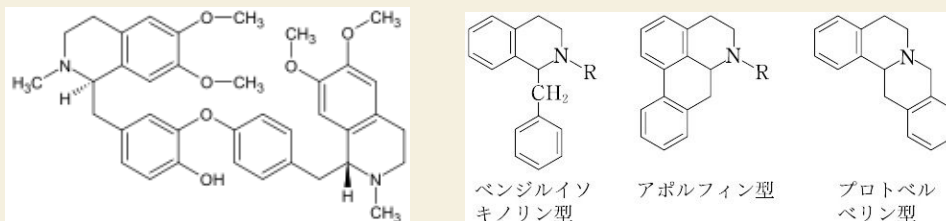
「アルカロイドは、微生物、真菌、植物、両生類などの動物を含む非常に様々な生物によつて生産され、天然物（二次代謝産物とも呼ばれる）の中の一類を成している。多くのアルカロイドは酸塩基抽出（英語版）によつて粗抽出物から精製できる。多くのアルカロイドは他の生物に対して有毒である。しばしば薬理作用を示し、医薬や娯楽のための麻薬としてや、幻覚儀式において使用される。」

#### 3.1 俳優の動作による下降の実現

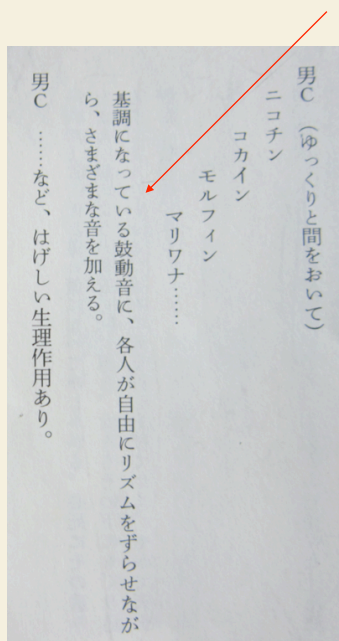
「男Cをのぞいた全員が、身長順に横に並ぶ。左端の者が直立し、二番目は頭を左側の者の肩の位置に、三番目は同じく二番目の者の肩の位置に、と次第に姿勢を低くし、四番目を最低にして、次からは再び肩から上だけ高くする。つまりノコギリの刃のような形になるわけだ。」

### 3.2 俳優の言葉（脚本では文字）による下降の実現

男Cによる科白「アルカロイド……窒素をふくむ「植物塩基」の総称」といふ呪文とともに「男性二人による、低い鼓動のリズムがはじまる。」此の鼓動は繰り返しである以上は呪文である。何故アルカロイドによつて「男性二人による」動作のリズムが始まるかといへば、それはアルカロイドが塩基の有機的な結合であるといふ同じ形式の組み合わせの繰り返しであり、それが図形的なまたは幾何学的なパターン（型）としての呪文であるからです。



「男性二人による、低い鼓動のリズムがはじま」つた後には、この存在の中での更なる下降は次のように文字で示されてゐる。



そして此の後、「リズムも早まり、ピストン運動も激しくなり、鼓動音も強まって叫びになる。それから突然の静寂。」

この、何か極まった後の突然の静寂もまた読者には親しい静寂です。音がしないのであれば、そこは『箱男』の最終章にある通りの、落書きのための余白であり、即ち夢の世界であり、次の次元の存在であるといふことになります。

### 4. 存在への立て札を立てる：第四景：存在2

この存在2は静寂と沈黙の世界であるが故に音はなく動作だけの舞台であつて、従ひ科白がない。否、科白はあるが、夢の中の無時間の科白、即ち因果律に支配されない科白です。

存在論の此の科白のやりとりによつて引力は消滅し、次の景へと移る。

## 5. 存在を荘厳(しょうごん)する：第五景：再び海底：存在2.1

「再び」とあるので、確かに再びではあるが、既に次元の一つ上にまたは下に降りた別次元の海底「再び」であり、そのやうな海の底です。沈黙の中の依然として在る存在2から一階層下に下降した存在2.1の舞台。

それ故に最初に「再び海底 ここは引力のない世界だ。引力から自由になった海の生物を暗示するさまざまなイメージ。」と書かれて、引力のない無重力の演技の舞台が始まってる。

そして、この景の最後に女Bといふ案内人が「宙を泳ぎながら」いふ科白、「だが、いずれ酔いは醒めるし、飽きも来る。」といふ言葉とともに此の景のそれまでの「すべてのイメージは四散する。」科白が「せりふ」とひらかなで書かれてみて、しかも傍点が原文に振られてゐるのは、案内人による此の一行の科白がまたしても次の存在への呪文となつてゐるからであり、漢字で書くことによる役者の発声上の問題を、重要な此の一点に於いて、妥協なく解決するためです。このための訓練については既に「周辺飛行26」でみた通り。

そして、何故案内人の名前が男女ともにBであつて、Aその他C以下の名前でないのかといへば、これも安部公房の読者には周知の通り、トポロジーの作家安部公房にとつては、隠れた存在として主要であり実際に力を陰で又縁の下の力持ちとして発揮するのは、一義的な地位にあるものではなく、安部公房の此の世界ですから有機物無機物を問はずに二義的・二次的な地位にあつて価値を有するものであるといふ理由によるのです。コップはドーナツであるとすれば、コップが話題の文脈(context)であれば、ドーナツがもう一つの存在として隠然たる影響力をコップに及ぼしてゐるのであり、日常の時間の中で私たちがドーナツの話をしてゐると実はコップこそが二義的な地位にあつてドーナツに支配的な影響力を及ぼしてゐるといふわけです。さて、さういふわけで、

この男女Bによる上記の呪文が次の存在出現のための荘嚴の言葉といふわけです。

## 6. 次の存在への立て札を立てる：第六景：存在への存在の立札

冒頭の作者の指示は、指示といふよりも此の景の演技動作の解説、即ちマニュアル即ち案内人と立札の役割を演じてみて(『箱男』の冒頭の箱製作マニュアルと同じ役割)、それはtopological(位相幾何学的)に動いて止まない襞(といふ隙間から)なる凸凹の形象(イメージ)で始まつてゐる。カーテンの、襞々の動く立札(案内板・道標べ)といふわけです。それは次のやうに立つてゐる。

「男Aをのぞいた全員が、瞬時にして動くカーテンをつくる。呟くやうに脈動のリズム。ある場所で男Aが、カーテンの一人ひとりに新聞を手わたす。その新聞紙には、両手をとおせる穴が二つ開いている。カーテンが静止し、各人がその新聞紙を頭からかぶつて坐り込み、両腕だけを外に出す。次の男Aの朗読のあいだ、各人、手だけのマイム。例えば、朝おきて



から朝食までの、ごくリアルでは日常的な仕種など……」

新聞紙が安部公房の世界に登場すれば、これは初期安部公房以来終始一貫して、それは超越論的な「明日の新聞」なのであり、時間の存在しない明日の、時間の因果律によらない明日の、即ち《明日》の新聞、即ち《明日の新聞》といふ媒体（メディア）なのであることは、これも読者にはいはずもがなのことです。これは超越論の新聞ですから、明日は明後日の今日、此の今日はあなたの今あるその今日の明日、昨日のあなたの明日の今日といふ時間の単位（此の場合は日刊ですから日単位）の単位化された等価交換の値を持つ時間です。『第四間氷期』に登場するモスクワ2号といふ預言機械を思つても良いでせう。この預言は予言ではなく預言である以上、必ず今日といふ現在に於いて言葉が《明日》の実体を以て《今日》実現する。この論考の文脈でいふと、「言葉によるイメージ」が「舞台化」することになる。

上の引用の通り、役者たちは舞台の上で新聞紙を頭から被つて新聞紙になる。何故両手だけが穴から外に出て、「手だけのマイム」をするのかといへば、これも初期安部公房の『第一の手紙～第四の手紙』に特段に現れてゐるやうに、両手は安部公房にとって特に重要なものだったからです。一つには道具を使つてものを製作する其のやうな時間の中で生理と仕事のリズムと分かち難く結びついた右手であり、これに対して左手は存在の手であるからです。後者をさう呼ぶなら、前者を現存在の手と呼んでもよい。安部公房の左手は、全集第30巻の表紙を開扉して最初に見開きで転写されてゐるので、一度ご覧になつて下さい。それほど左手は重要な手です。もし手が出て来るならば『第一の手紙～第四の手紙』に限らず、『第一の手紙～第四の手紙』と同じ意味の存在の手であるのです。勿論、この手が由来するところは、リルケの『マルテの手記』に出て来るテーブルの下の闇の中で落ちた赤い色鉛筆を探してみたら向かうから突然出現した手、即ちマルテも自覚のない無意識裡に暗闇の中で観てやつて来た自分自身の手であつたわけですが〔註5〕。ですから、この手は、暗闇または夜と深く結びついてゐる存在の手なのです。ですから、この景の最後には、

「同時に全員が新聞を引き裂いて立上がる。暗転——」

といふ結末になること必定であるのです。

〔註5〕

リルケの『マルテの手記』には次のやうに書かれてゐる（望月市恵訳。岩波文庫96ページ～97ページ）。『第四間氷期』の水棲人間ですら、この机の下の暗闇の中にあなたは生きてゐることを知るでせう：

「僕は勘をたよりにして、膝をつき、左手でからだを支え、右手で敷物の冷たい長い毛のなかをなでまわした。毛皮の感触はひどく快かったが、鉛筆は指にふれなかった。僕は時間をひどく空費しているような気がされ、小母様（マドマゼル）を呼んでランプの光を見せてもらおうと思つたが、そのときに、無意識に大きく見ひらいた目に暗さがすこしずつ透明になり始めたことに気がついた。白い細い棧（さん）でかざられている向かいの壁も見えるようになった。机のあしの場所もわかつて来た。それよりも、指をひげている自分の手が見えるようになった。その手はなんとなく水棲動物のやうにひっそりと下を泳ぎまわり、毛皮のなかをさがしまわつていた。今でもおぼえているが、僕は自分のその手をほとんど息をひそめて見つめていた。僕の手がそれまで

に見せたことがないような運動をつづけながら下を自由に動きまわっているのを見てると、それは教えられたことのない運動さえもできそうに感じられた。僕は手が進んで行くのを目で追っていた。興味を呼びさまされ、あらゆる場合を予期していた。しかし、不意に向かいの壁から別の手が進んで来たことはどうして予期できたろう。僕の手よりも大きかったが、今までに見たことがないほどやせている手が、向こう側から同じようにさがして来て、二つの手は指をひろげながら傍目（わき目）もふらずに向かい合って進みよった。僕の興味はしばらくつづいたが、突然それが消えて、恐ろしさだけが残った。僕は二つの手の一つが僕の手であって、それが取り返しのつかないことにかかわり合っていることを感じた。僕は自分の自由にできる手を必死に引きとめ、毛皮の上へ平らに押えつけながら徐（おもむ）ろに引こめた。僕は引こめながらも向こうの手がさがしつづけて来るのから目をはなさなかった。僕はその手がさがすことをやめないだろうと知った。どう椅子へ這い上がったかおぼえがない。肘掛椅子に深くすわって、歯をがちがちと鳴らしていた。顔から血が引いてしまっ、自分でも白目に青い色がなくなったように感じた。」

安部公房の世界と此のリルケの『マルテの手記』を考へる場合にとつても大切なことは、このマルテの世界は父親も此の小母様も同じ屋根の下に生活してゐる男女も皆血縁関係はない疑似家族であり、しかも定住してゐるのではなく、旅をしてゐる疑似家族であるといふことです。安部公房の読者には是非『マルテの手記』を読んでもらひたい。

「明日の新聞」が引き裂かれて舞台が暗転すると、直に存在に触れることのできる直観的な存在が、そして出現する。それが《鞆》であり、鞆といふ形象であることが、ここで判り、次の景で判ります。『鞆』といふ戯曲が《鞆》といふ存在論の芝居であつたことも、ここで判ります。そして存在論の芝居は、言葉と裁判で構成されてゐる。さうであれば戯曲『棒』もまたさうであり、言葉と罪と罰の劇だといふならば『友達』もさうであるといふことになる。これが第七景と第八景の意味です。ですから、この二つは元々一つなのであり、この間の稽古の過程で収斂してして行き、次の「周辺飛行26」で冒頭一つにまとめられてゐることは当然のなりゆきであつたといふことになります。

### 7. 第七景：言葉：存在3：《鞆》1

登場人物は、女Aと女Cと男B。男Bが鞆を演じるのでせうし、このことは次の景でも連続してゐるのです。この三者の芝居では「「せりふ」（傍点されてゐる）は一切使わない。「せりふ」（傍点あり）のかわりに「グジュ、グジュ」といふような、無意味な音だけで対話する。」といふ文章の次に、案内人である男女Bの間で交はされる会話そのものが次の存在への立札となつてゐるのは、『カンガルー・ノート』の最後の主人公と垂れ目の少女Bとの哀切にして美しい会話と同様です。このやうに考へると、『カンガルー・ノート』の最後の主人公と垂れ目の少女Bは等価交換されて、主人公は垂れ目の少女Bになつたといふことです。また、何故垂れ目の少女はAではなく、Bでなければならないかも良く解ります。

### 8. 第八景：裁判：存在3.1：《鞆》1.1

この裁判は『友達』の場合と変はらない。何故なら「全員で男Bをとりかこみ、男Bが自分の努力によって夢から醒めるべきだという判決を下す。」からです。そして、

「男Bは拒絶の身ぶり、ひたすら鞆のうめきを出しつづける。」

ここで、男Bといふ媒体（メディア）にあつて、鮑は贗魚である。案内人は二つの次元の上位接続者（媒体）である。

それでは、第七景と第八景が一つにまとまる存在論の劇であるとして、続く第九景と第十景は一体どういふ役目を果たしてゐるのでせうか。この二つの結末は、私たちには『第四間氷期』の最後を強く思はせます。そして、水棲人間の少年の美しい死の後に、結末の結末は、主人公であり話者である勝見博士に殺し屋の足音が部屋の外に響いてやつて来る終り方をして終はつてゐるのでした。

しかし、この二つの景は『第四間氷期』の最後のやうには絶望的ではない。何故なら「贗魚は、夢から覚める前に死んでしまっていたので、もうそれ以上覚めるわけにはいかな」かつたからです。このことを示す最後の二章は次のやうになつてゐる。そして、この二章は依然として《鮑》の中での、従ひ因果律から解放されて自由な汎神論的存在論の引き続きの話です。題名がついてゐないので、作者の意識の中では、ここから先は余白の世界、沈黙と静寂の世界、《箱男》の世界、即ち《人間そっくり》で火星人の開陳する「箱の中の迷路」の世界です。ですから、階層化の仕様がなないので、白い一枚布の世界であつて番地もまた無番地であり、従ひ「閉ざされた無限。迷うことのない迷路。すべての区画にそっくり同じ番地がふられた、君だけの地図。/だから君は、道を見失つても、迷うことは出来ない」といふ『燃えつきた地図』の世界です。観客は、この芝居を観た後に戸外の光の中へ出て行つて「都会—閉ざされた無限」の迷路を白昼さ迷ふやうに劇は仕組まれてゐる。この芝居を観た後は、時代も私たちも依然として21世紀の今日に至るまで白昼夢を見てゐるのではないのであらうか。

### 9。第九景：無題

男女Bの会話だけを抜き出して引用します：

女B ほら、うみが空のなかに落ちて行く！

（略）

男B 空気におぼれて、贗魚は死んだ。

女B 死んだ……

（略）

女B 凍った夢……

### 10。第十景：無題

「男A 嵐の後、海辺に打ち上げられた魚たちのなかには、だから、貝殻草の花にむせながら睡りについた、運の悪い連中がすくなからず混っているはずだという。」

以上が1973年「十一月十九日から紀伊國屋ホールで上演する、「ダム・ウェイター」「鮑」につづく第三景の原案である。」

## II 何故安部公房はシャーマン安部公房の秘儀の式次第を墨守したか

この問いに対する私の答へを簡潔に述べて、この「周辺飛行」論の締めとします。

明治維新以来、日本の作家と詩人たちの大きな課題は、近代ヨーロッパ地域から流入して来る科学・技術・文化を擁する巨大な力に対抗して、如何に日本語の藝術家である我が身を護ることができるか、また護るべきであるか、そして其の巨大な力の源泉にまで河の流れを遡つて/遡りながら、それもそれらの文物の真似をしながら嚙下咀嚼して自家葉籠中のものとなして、日本語を豊かにして、またそれによつて日本の国の伝統と歴史を毀損することなく豊かな藝術作品を生み出すことができるかといふ問題であり、これが実は個々人の作家と詩人の人生上の課題でした。

安部公房流に変形 (trasformation) といふ用語を使へば、一体どうやつてそれらの文物を変形させることによつて、日本の国と日本の文化に合はせて私たちの民草の生活に適合させることができるか、時を置いて庶民のものになるかといふことに身命を賭して生きることでした。これを要するに、更に一言で要約すれば、

一体如何に自分の言葉で日本語の様式 (style : 文体) を創造し、確立することができるか？

といふ問い答へることが、人生上の課題であつたのです。

この問に対して明治以来昭和までの作家たちが如何に誠実に応へようと努力したかは、小林秀雄の『私小説論』(1935年)に詳しく論ぜられてゐます。そして、小林秀雄の遺志をついだといふべき批評家福田恒存は、この問題を次のやうに問題提起してゐます。即ち、『私小説論』で小林秀雄の解析した問題と原因の分析を更に、日本人の作家として/にとつてあるべき文学概念の問題といふ視点から次のやうに問題提起し、酷(むごい)程に喝破してゐる。21世紀の今の日本語の作家たちは、この厳しい批評の言葉にはとても堪えられないでせう。

「ぼくたちには伝統がなかつた---いひかへれば、確固たる芸術概念がなかつたのです。文学について考えてみても、近代日本文学は明治のある一時期に---たとへば明治二十年代とか、もうすこし遅れて明治末年の自然主義文学全盛のころとかに---はつきり確立されて、それからのち現代にいたるまで徐々に成長してきたといふふうに、ふつういはれてをりますけれども、事實はけつしてそんなものではなく、極端にいふと、近代日本文学史は全活動をあげて、ひとつの文学概念の発見と確立に努力してきたのであつて、いまだに出発点にすら到達してゐないのであります。ですから、出発点からの成長ではなく、出発点への模索にすぎません。ひとつの伝統の展開ではなく、伝統への郷愁があつただけです」(『芸術概念の革新』)

文学とは本来は大人の仕事です。これは成熟した人間の仕事である。これを夏目漱石は、文学は男子一生の事業であるといひ、二葉亭四迷は同じ時代にこれを否定した。しかしいづれにせよ、明治時代に入つて来た巨大な力と日本の若者たちは、上記の目的のために正面から衝突した。ですから、日本近代文学は昭和の時代に至るまで、特に1970年（昭和四十五年）の三島由紀夫の死に至るまでは青春の死であり、その死とは自殺であるか病気によるものであるか、いづれかであるといふ程に、私には死屍累々といふ印象が誠に強い。外国からの強圧に耐へかねて死を選んだといふことです。病気もまた其の結果に、それが精神の病であれ体の病であれ、過ぎない。福田恒存の言葉は、かく考へれば、要するに日本の近代文学には個人の名前で成熟した文学はないと言つてゐるのです。伝統的な藝能・藝術はまた別の話です。

私の考察によれば、一人の藝術家が成熟を迎へ様式を備へた作品を連続的に創造するには、最低でも三代百年の時間を要します。もし安部公房が三代目ならば讃岐国の出である安部勝三郎夫妻から始まり、安部浅吉夫妻、そして安部公房といふ三代であり、もし安部公房が初代であるならば、その更に最低でも二代後の三代といふことです。私は若い時分に唐三彩の駱駝をみてさう思つた。その後同じことを世の中で確かめてみて、別に藝術に限らず、この見方は正しいと確信してゐるのです。さて、さうだとして、

問：安部公房は「近代日本文学史は全活動をあげて、ひとつの文学概念の発見と確立に努力してきたのであつて、いまだに出発点にすら到達してゐないのであります。ですから、出発点からの成長ではなく、出発点への模索にすぎません。ひとつの伝統の展開ではなく、伝統への郷愁があつただけです」といふ断言に対する安部公房の回答は如何かといへば、

答：安部公房は初期安部公房の時代から「ひとつの文学概念の発見と確立に努力して」『デンドロカカリヤ』『赤い繭』『魔法のチョーク』を経て『S・カルマ氏の犯罪』に至つて遂に其の確立に成功したこと。この苦闘の後は一連の『初期安部公房に頻出する「転身」とは何か』（もぐら通信第1号から第1号）で実証したところです。そして更にまだ尚、日本共産黨員になつてまでマルクス主義の超克のために『飢餓同盟』を完成させたこと。

これが一体どういふ人間の哲学と数学（トポロジー）の思弁能力を作家が必要としたか。この論理的に徹底した思考能力が近代ヨーロッパの文物に関して日本人の作家が足りなかつた、福田恒存にいはれた「いまだに出発点にすら到達してゐないのであります。ですから、出発点からの成長ではなく、出発点への模索にすぎません」と厳しくいはれて抗弁できない欠点であつたのです。しかし、これら優れた作家たちの擁護を私はここでして置きたい。一体大陸でほぼ生まれたに等しく其の後十代の半ばまで大陸で、しかも奉天といふバロック様式の、東京の比ではなくヨーロッパ都市である都市に育つた、さうして数学と哲学を理解してリルケ・ドストエフスキー・ポー・ニーチェを、そしてルイス・キャロルを、自家葉籠中のものとなした日本人以外に一体どのやうな日本人にこんな曲藝が、サーカスのテントの中の高い中空に張られた綱の上を一人で渡るやうな曲藝ができるといふのでせうか？勿論、安部公房には、福田恒存にいはれるまでもなく、その文学世界は「ひとつの伝統の展開ではな

く、伝統への郷愁があつただけです」らないといふことは、安部公房全集全30巻を通読しても、またしなくとも、作家の生前から自明です。しかし、勿論その文学の地下深く流れてゐる命の水脈は三代前の讃岐国の伝統の力であることは最晩年の『カンガルー・ノート』の御詠歌の引用にみることができます。讃岐の国は弘法大師空海の生国です。そして最晩年の安部公房は自分の血脈を讃岐国に尋ねる仕事を編集者に依頼してゐた（「黛君に調査依頼の件」全集第28巻415ページ）。何故最後の最後まで首尾一貫して安部公房の世界が成立し得たか。それは伝統に頼ることなく、日本語といふ言語によつてのみ初期安部公房の確立した様式、即ち私が「シャーマン安部公房の式次第」と名付けた様式（style）によつてのみ〔註6〕、その世界が生まれ得ることを安部公房は切実に知つてゐたからです。切実にとは、さうしなければ日本の国で生きることができなかつたといふ意味です。そして、偶然にも（果たしてこれは偶然であらうか？）安部公房の文学の様式たるトポロジーは古事記の冒頭天地初発の高天原のトポロジーに一致してゐた。しかし、この様式は「ひとつの伝統の展開ではなく、伝統への郷愁があつただけです」らあつてはならない。この空中の、しかし楼閣ではない綱渡りに私たち読者は強く惹かれる。即ち、安部公房の言葉の様式、即ち文体に惹かれてゐるのです。これは一代ではなし得ないものです。

## 〔註6〕

この安部公房固有の独創的様式については『安部公房の奉天の窓～安部公房の数学的能力について～』（もぐら通信第32号および第33号）をお読みください。

安部公房が確立した文学概念は「仮説設定の文学」（メタSF文学）です。そして、哲学の領域では超越論哲学であり（初期安部公房はこの哲学を「新象徴主義哲学」と呼んだ価値体系論〔註7〕）、数学の領域ではいふまでもなくトポロジー（位相幾何学）です。哲学の師はデカルトであり（デカルトの解析幾何学もまた安部公房の好みであつたことせう）、決してヘーゲルの類の近代ヨーロッパの共産主義イデオロギーではなく、文学の存在の世界の師は漢学・漢籍に造詣深くまたフランス文学にも同様の石川淳であつた。そしてやはり存在論の目利き埴谷雄高がゐなければ安部公房は世に出ることはなかつた。

## 〔註7〕

「僕の帰結は、不思議な事に、現代の実存哲学とは一寸異つた実存哲学だつた。僕の哲学(?)を無理に名づければ新象徴主義哲学(存在象徴主義)とでも言はうか、やはりオントロジーの上に立つ一種の実践主義だつた。存在象徴の創造的解釈、それが僕の意志する所だ。」（『中壘肇宛書簡第10信』全集第1巻、270ページ上段）

「安部公房の名付けた新象徴主義哲学といふ「この哲学とは『詩と詩人(意識と無意識)』に拠つて簡潔に言へば、二項対立の両極端の項を否定して、自己喪失による記憶の喪失を代償に(この否定の中に自分自身の否定を、この否定とは自己喪失と記憶喪失と意識喪失のことにほかなりませんが、このやうな否定を含むといふことです)、果てしない垂直方向(時間の存在しない方向)に次元展開を繰り返した果ての究極に観る(自己の反照としての)第三の客観、即ち存在の創造をするといふ方法論でありました。ここで

(1)観ることと

(2)自分自身が存在になることと

### (3)存在自体の出現

これら三つが一つになつてみます[註4]。ここにも3といふ数字があります。

安部公房の、これが創作の秘密であり、一生を貫く創作のための方法論です。これは、コンピュータの基礎であるブール代数による二進数の論理演算の論理によれば、否定論理積といふ論理に当たります。これが、一生の安部公房の生きる論理であり、安部公房の「現代の実存哲学とは一寸異つた実存哲学」であるのです。」

「安部公房の新象徴主義哲学は、次の3つのことからなります：

#### (1)観ること

これもリルケに学んだ事です。以下中埜肇宛書簡より引用します：

「中埜君、御變りありませんか。昨日やつと旅行から歸つて参りました。永い旅でした。丁度リルケがロダンから學んだ如く、僕もリルケから「先ず見る事」を学びました。」(『中埜肇宛書簡第5信』全集第1巻、92ページ)

安部公房の詩に『観る男』といふ詩がある。(全集第1巻、133ページ)ここには、既に「明日の新聞」が「書き了へた」「未来の日記」とし出てくる。

また、汎神論的存在論の形象(イメージ)が、後年の海や洪水などに通ずるものとして、次のやうに歌はれてゐる。

「此の果てしない存在にとりかこまれて、あふれ出た透明な涙を両手に受けるのは……?唯一未来の日記を書き了へた時に……。」

此の詩には、これ以外にも、転身、沈黙、「僕の中の「僕」」の話法、出発、忘却といふ、安部公房文学にとつて本質的な用語が書かれてゐる。

#### (2)自分自身が存在になること

「詩人、若しくは作家として生きる事は、やはり僕には宿命的なものです。ペンを捨てて生きるという事は、恐らく僕を無意味な狂人に了らせはしまいかと思ひます。勿論、僕自身としては、どんな生き方をしても、完全な存在自体——愚かな表現ですけれど——であればよいのですが、唯その為に、僕としては、仕事として制作と言ふ事が必要なのです。これが僕の仕事であり、労働です。」(『中埜肇宛書簡第8信』(1946年12月23日付)、全集第1巻 188ページ下段)」

### (3)存在自体の出現

『詩と詩人(意識と無意識)』より引用します。ここでいふ第三の客観こそが、安部公房のすべての主人公の最後に観る究極の存在のことなのです：

「諸々の声は吾等の魂が夜の本質にふれた所から始まる。それが様々な次元に展開されて言葉となる。それは自己否定=自己超越の形を以て意識の中に捉えられる。物それ自体、云い代えれば夜の直覚が展開する自体として或種の象徴的予感を産みつける。その中にこそ実存的意義を失わない、客観なる言葉を生み出した本源的な内面的統一に反しない、第三の客観が視視されるのではないだろうか。如何なる表現も主観を通してのみなされ得ると云う事は明かである。主観的体験のみがあらゆる意識を言葉たらしめるのである。そして当然、生存者としての人間各個の内面的展開次元の相異に従って、その言葉の重さ(含まれている次元数)の相異が考えられる。主観はその魂の夜の本質にふれる程度によって様々な重さを持つ。では此の主観のつもり行く次元展開の究極は、一体何を意味するのであろうか。その時人間の魂は限りない夜への切迫を体験するのである。夜の直覚は単なる概念ではなくなり、行為・体験・方法の中に現実的な姿を表すのである。そして、此

の永遠の距離を以てはるかへだたっている究極を、吾等は第三の客観として定義する事は出来ぬものであろうか。」

(全集第1巻、107ページ)」

これらの基礎の上に、それは決して「伝統への郷愁」など皆無であるが故に、最も古代的な万葉集の世界の再現を、誰も日本人が普通には連想して理解することができない程にできたのであり（『カンガルー・ノート』）、日本語の精神（言霊）は特殊の中に普遍を実現することができたのです〔註8〕。この意義に於いて、安部公房の文学が一体どのような文学であるのかは、三島由紀夫との対談『二十世紀の文学』といふ優れて反時代的な対談によく示されてあります。それが一層良く示されてあるのは私既論の通り、三島由紀夫がこの時点でそれまでの自分の人生の総決算としての文学概念を並行四辺形のトポロジーで思ひ描き（これは明らかに安部公房が三島由紀夫に教へたものでせう）、自分の文学概念がこれから45歳の死に至るまで本当に正しい文学の道であるのか否かの真偽を安部公房のいはば胸を借りて、安部公房の反論を試金石にして確かめようと企図して対談の席に臨んでみたからです（勿論この時、安部公房は其の覚悟を知らない）。この事実と対談前後の期間に亘る三島文学の成果については『真夏の死』論（もぐら通信第95号）、『鏡子の家』論（「『鏡子の家』の中のS・カルマ氏」もぐら通信第96号）、『夢の逃亡』論（もぐら通信第1号）に詳細に論じましたのでお読みください。

三島由紀夫もまた身命を賭して様式の確立と維持に心血を注ぎ、自分の様式が時代の様式であり同時に日本の国の伝統の様式であるといふ信念に生きた。何故なら、安部公房同様に、三島由紀夫にとつての様式とは、作品のどのページにも書かれる三島由紀夫の日本語の一行が、作品の首尾一貫した構造であるべきもの、これが普遍的な意義に於ける様式・styleであるからです。これは、特に明治時代以降に限らず、どの時代にあつても、文学以外の領域にあつても、事情は同じです。

#### 〔註8〕

安部公房のこの自負は、ドナルド・キーンさんが娘のねりさんに語つた、安部公房がキーンさんにいつたといふ言葉、即ち「まあ、しかしお父さんには大変な野心がありました。というのは、長いこと日本の現代作家は、ヨーロッパ人から学ぶということが、非常に大切だったので。外国文学を読んで、なにか新しい日本文学を作るという考え方がありました。お父さんはむしろ、先駆的なことをやってみたい、まだ西洋人が考えたこともないことをやってみたい、未来の西洋文学者たちは、自分をまねするだろうなどと考えていました。」（全集第25巻贗月報）とある言葉にあります。

追記：ここで詳細に論ずることは控へますが、福田恒存の厳しい指摘の指したところは、日本近代文学史上の文学の担ひ手が人間の成熟ではなく青春であつたが故に、一貫した特徴は父親の不在といふ主題にあるといふことです。これは1970年（昭和45年）の三島由紀夫の死まで続きました。



この主題を軸に代表的な作家の名前を思ひつくままに挙げれば、夏目漱石・森鷗外―芥川龍之介―志賀直哉―平野謙・中野重治・堀辰雄（この三者の連続は江藤淳著『昭和の文士』による）―三島由紀夫・安部公房、この列の最後尾に三島由紀夫に直接接続してゐる（三島の読者は怒るかも知れぬが）村上春樹といふ国際的通俗流行作家の名前を挙げなければならない。そして、誠に興味深いことには、これらの作家に隠れてあるものは太陰暦の主（ぬし）である月といふ文字であり、最も夥（おびただ）しくこの文字を書いてゐるのが、『月』といふ作品をものした三島由紀夫の否定者、実は村上春樹なのです。三島由紀夫は自分には成熟はなかつたと『太陽と鐵』に書いて逝つた。三島由紀夫はこれを自分の言葉では「かへりみれば、私の遍歴時代には〔引用者：三島の三十代〕、時代と社会の急激な変化はあつたが、一つのじつくりした有機的な形成はなかつた。大きな外延を持つてひろがり育つ、一つの思想の成熟もなかつた。日本の小説家が、さまざまな心の艱難と時日の経過から得るものが、ただの技術的洗練だと考へるのは悲しいことだ。」と書いてゐる。そして、この主題を『成熟と喪失―母の喪失―』と題して論じた江藤淳もまた自殺をして逝つた。小林秀雄のある批評を読んでみて突然行間に若き日の小林秀雄が小笠原諸島のいずれかの島の断崖絶壁から身を投げようとして其処に立ち足下に遙か遠く波立つ海面を見て私は喫驚して眼を見張った経験がある。批評家の此の若き日の苦しみは最後の作品『本居宣長』の中に論語の「仁者はこれに告げて、井に仁ありと曰うと雖も、其れこれに従わんや」（雍也第六の二十六）の解釈にまで及んで生々しく生きてゐます（『本居宣長』135ページ。新潮社単行本）。小林秀雄といふ批評家に成熟は訪れたのであろうか。福田恒存が文学的人生を始めるに当たり何故芥川龍之介、あの『大川』といふ隅田川・江戸風景論ともいふべき美しい散文を書いた明治から昭和二年までを生きて自殺した作家を論じたいとおもつたのか。福田恒存にとつても同じ事情があつたあらであらう。

このやうな、作家たちが此のやうに列をなすといふことの意味は、視点を変へて考へると、私たちの問題は殊更に幕末・明治維新以降の今日まで、何が問題かと云へば、それは、

- (1) 国家と個人・家族と父親（といふことは家族と母親といふことでもある）
- (2) 自然と人間（性の問題はこれに含まれる）
- (3) 個人と成熟（といふことは国家と家族の成熟といふことでもある）

この三つが大きな問題であつたといふことなのです。

国家観を得るとはこれらの問題を同時に解決するといふことであり、日本人の自然観を恢復したといふならばこれらの問題を同時に解決したといふことであり、個人の成熟を求めて日々努力をするとはこれらの問題を同時に解決するといふことです。そして、委細を抜きに結論を云へば、成熟と成長は異質のものであるといふことです。前者は「一つのじつくりした有機的な形成」であつて、「大きな外延を持つてひろがり育つ、一つの思想の成熟」のことなのであり、後者は「時代と社会の急激な変化」に應ずるが故に日本人が強ひられて「さまざまな心の艱難と時日の経過から得るものが、ただの技術的洗練だと考へるのは悲しいこと」だからです。前者は私たち日本民族固有の月による位相史に拠る解決であり（1万6000年来）、後者はヘーゲルとダーウィンによる歴史・動物進化論（3000年来）に拠つて生きようとするとき生まれる人間の悲しみのこと（150有余年来）である。

『砂漠の思想』を読む

(4)

II 砂漠の思想

「ミュージカルス」

岩田英哉

安部公房の最初の評論集『砂漠の思想』中の同じ題名で呼ばれて即ち一巻全体を代表してゐる第二章「砂漠の思想」を此処まで読んで来て、「ミュージカルス」といふ題名の此の節は、次の一行で始まつてゐる。

「私はミュージカル映画をみると、その出来事の良し悪しにかかわらず、ちょうど精巧な機械に接したときのような、一種特別な興奮にかられてしまう。」

この冒頭の一行で判ることは、結局、安部公房のいふ砂漠の思想といふ思想は、これまでに此の「II 砂漠の思想」といふ第二章の全体を構成する細部の主題の抽象化された目次が、(1) 映画・俳優論 (2) ミュージカルス論 (3) 記録藝術 (ドキュメンタリー)

(4) 砂漠論であることを思ひ出せば、要するに映画の思想なのである。といふと、この結論に関して、次のやうな変換が成り立つ。

砂漠の思想とは映画の思想であり、映画論である。即ち、

砂漠とは映画である。即ち、

映画とは砂漠の世界である。

と、このやうに考へると、私たち読者はいふまでもなく芥川受賞作『S・カルマ氏の犯罪』の結末で主人公S・カルマ氏が映画の銀幕(スクリーン)に映写される砂漠の中に「いつのまにか」即ち超越論的に、意識・無意識の境界を超えて其の内部に存在してゐるあの場面を想起するのです。映画のスクリーンの向かうには果てしない砂漠が延々とあるばかりなのでした。なるほど映画の銀幕とは一枚の白い布であり且つ外界への窓である。と、更に此のやうに考へて来ると、奉天の小学生時代に安部公房の書いた次の詩を思ひ出さずにはゐられない(安部ねり著『安部公房伝』26ページ)。

「クリヌクイ クリヌクイ」  
カーテンにうつる月のかげ

この詩の第二行は、月の影がカーテンに映るのでから、安部公房は自分の二階の部屋にゐて、夜部屋の電気を消してゐる。そして、窓を開けて外を眺めてゐるのではなく、カーテンを間に挟んで、窓の向かうの、月に照らされてゐる満洲の砂漠を、カーテンに映る月

の反照、即ち「月の影」を観てゐる。部屋の外では栗売りが、といふことは秋から冬にかけての寒い季節に日本人ならざる異国の人間が「栗が温いよ 栗が温いよ」と呼びかけて栗を売る、砂漠といふ異界の声が聞こえてゐる。最初の一行は直接話法、二行目は間接話法の並びである。と文法的に分析をすれば、これはそのまま後年の安部公房の小説の話法の構造であるといふ話は『安部公房の奉天の窓の暗号を解読する ～安部公房の数学的能力について～』（もぐら通信第32号および第33号）にて詳述の通りです。また、この詩が如何に安部公房の生涯に及ぶ深い意義を有する詩であるかも其処で論証しましたので、此処では繰り返しません。要するに、安部公房にとって、

映画とは砂漠の世界であり、映画とは奉天のあの暗闇の中にある部屋の内部から窓を通じて思ふ外部へと目を遣り、異界の人間の定型的な呼びかけの声、いつも異界への誘いの声と共に目に映る「カーテンにうつる月のかげ」である。映画とは窓に掛かる銀幕（カーテン）に映る月の影である。映画のカーテン（銀幕）とは「奉天の窓」であるといふことなのです。

映画は奉天の窓に映る月の影、夜の月の影である。これが、藝術範疇を問はず安部公房に固有の砂漠の思想である、といふことになります。1970年代の安部公房スタジオの、それも後半・後期の舞台を見れば、汎神論的存在論のあの砂漠の如き延々と広がる一枚の白い布、常に1であつて自在に変形する存在の布を思ひ出すことができる。それでは、砂漠の思想の一部であるミュージカルもまた映画の中の舞台なのであり、其処に、汎神論的存在論のあの砂漠の如き延々と広がる一枚の白い布、常に1であつて自在に変形する存在の布を思ひ出すことができる。一々言及されてゐる映画の名前は挙げないが、映画としてカーテン（銀幕）に映るミュージカルを「やはり、あくまでもきわめてアメリカ的なものだ」と安部公房は言つてゐる。安部公房のアメリカ論は、アメリカ人の製作する文物が、コーラやジーンズの例をとるまでもなく大衆と結びついて国境を越え無批判・無抵抗といつて良い位にあつといふまに世界中に広まつてしまふといふ此の魅力について述べてゐますので〔註1〕、これを哲学の領域で此処でも汎神論的存在論と、この作家のアメリカ論が其のままなつてゐることをさう呼んで差し支へないと思はれる。そして此れが其のまま安部公房の詩の世界であるといふことは諸処既述の通りです。

## 〔註1〕

1957年『アメリカ発見』（全集第7巻438ページ）の特に第3章と第5章に相当する論がなされてゐるので参照下さい。その最後の第5章にミュージカル論も書かれてゐる。

安部公房は、この、映画で成功を取めたミュージカルを「アメリカでミュージカル、とくにそれが映画として成功した」ミュージカルと呼び、「ミュージカルはこれまでのどんな伝統的音楽劇ともちがった、まったく新しい様式なのである。/アメリカはミュージカルをつくり出した。」と言つてゐる。

そして、以上のことを具体的なミュージカル映画に即して語つても、安部公房はまだ飽きたらなず、言い足りなかつたので、「ミュージカル再説」を続けて書いた。その冒頭は次のやうなもので、ミュージカル映画は「奉天の窓」であるといふ私の仮説を裏付けるものです。

「私がミュージカルに関心を持ちはじめたのは、かならずしも、実際のミュージカルの作品に接して、感心させられたからというだけではない。また、その歴史や理論を知り、それが最先端をゆく実現形式であると考えたためでも、むろん、ない。つまり、私の関心はミュージカル自体から出発したものではなくて、むしろその外から、それまで私が自分の課題としてさぐりつづけていたものの一つの結果として、たまたまそこにたどりついた……というより、たどりついてみたら、それがたまたまミュージカルと呼ばれているところのものであったのだ。

だから私はミュージカルの一般的規定に—そういうものがあつたとしても—いささかもこだわらなす。 (略) それより、私自身のイメージのほうが、はるかに大事なのである。そして、そのイメージにたいしては、かなり頑固な考えをもちつづけている。」

上に引いたのは、第一節のほとんど全ての量の文章です。第二節は、そして、「《行動の分解について》」といふ安部公房の存在論の記号で囲まれた行動分解論で始まります。従つて、この記号から先の論述はどんなに私たちの日常の言葉で一見平易に語られてみやうとも、その奥でも其の深い底でも安部公房の汎神論的存在論に依る思弁の世界が始まるよといふ合図なのです。《行動の分解について》といふ主題は後年安部公房スタジオの演技論の中核概念《ニュートラル》に基づく演技指導論に結実したことはいふまでもありません。この演技指導論は『全集未収録メモ『基本的な演技の質の統一』として安部公房の直筆のメモとして掲載したところす (もぐら通信台115号「『周辺飛行』論(27):3。『周辺飛行』について(20)」参照)

さて、どんな存在論を安部公房は繰り広げてゐるか。これが、安部公房らしいことに、『アヴェロンの野生児』といふ本で読んだ、人間社会と隔絶されて育つた野生児の話で、この話が其のまま言語と人間の精神の話として語られてゐる。安部公房らしいのは、人間の精神を何か抽象的なものではなく、「人間性というものが、けっして一般に考えられているように、精神的なものでも謎めいたものでもなく、まことに物質的な肉体的なものであり、同時にまた社会的(=歴史的)なものであることを、はっきりしめしてくれている。つまり人間とは、「社会的肉体」とでもいふべきものにほかならなかつたわけである。」と考へてゐることです。これは、批評家小林秀雄の『私小説論』に関して人にいはれて定型化された有名な文句「社会化された私」に相当する、同じ散文家とはいへ、小説家の側からの言ひ方です。あるひは、日本近代文学史といふ視点で観ると、これは、詩人安部公房が肉体から出発して至り、詩人小林秀雄が精神から出発して至つた言葉と文学的虚実の皮膜に関する明治時代の坪内逍遙以来の問題の同一地点であるといふことができます。

この同一地点に本来は汎神論的に存在するべきである筈の「《歌とおどり》——このリズムにあふれた、しかも普遍的で大衆的な肉体の言葉は、しかし散文文化（意味の芸術）のはなやかな繁栄のかげに、ややおき忘れられた観がある。これは不健全なことだ。」（傍線は原文傍点）

これを読むと、安部公房の汎神論的存在論の具体的な形容は「普遍的で大衆的」であり、即ち此れが汎神論的存在であるといふことであり（この考へ方は其のまま安部公房のアメリカ論を書く動機になつてゐる）、この言語表現を舞台上で表現されたものが《ニュートラル》な（役者によつて—心理によるのではなく—生理によつて表現された）「肉体の言葉」である。これが、この1950年代後半の映画論としての砂漠の思想の濃縮（エッセンス：存在）であるといふことになります。この年代にあつては即ち、《歌とおどり》の不健全な「分離」を何とか一次元上での統合に実現したいといふ思ひを、「なにかもっとほかの言葉で規定すべきもの……たとえば「社会的肉体」にまで分析された行動《生活》のリズム、とでも言ったほうがいいような気がする。」と作家は言つてゐる。

以上が此のミュージカル論での第五節までの本質的な要約ですが、最後の第六節で、安部公房はまたしても汎神論的存在論の記号を用ひて、今度は二つの異なる範疇の一次元上での統合即ち《ミュージカルとドキュメンタリーの結びつき》の統合の現実性について言及してゐる。何故なら、それは「まるで異質なものにみえるこの二つが、実は課題として、分かちがたく結びつけられているのである」から。何故この二つが「分かちがたく結びつけられている」といふと、「アクションの徹底的な分解は、けっきょく、現実を無意味なまでの細部に解体することにほかなるまい」からである。これが、安部公房の《問題下降に依る肯定の批判》の思想であることに私たちは気づきます。何故なら、この肯定するために批判し、批判とは対象を国家から個人に至るまで徹底的に肯定することであり其れの上に成り立つ批判であり、その為には抽象的な観念からではなく、もしさうだとしても其れを細部に至るまでに分解して時間の中での生理的な感覚に落とし込むこと、これが国家から個人に至るまでの言語と言葉を媒体とした最高の（といふ言葉使ひを安部公房は決してしないがしかし其のやうに私の言葉でいふと）問題の解決であることだからです。更に何故なら「動かなくてはならない。そして動かさなくてはならない。手を、指を、そして目と鼻を。今こそ君は自由なのだ。」といふことだからです（『問題下降に依る肯定の批判』全集第1巻15ページ）。これがこのまま演技指導理論であつたことは上述の通り。かくして、問題下降することによつて、即ち「アクションの徹底的な分解は、けっきょく、現実を無意味なまでの細部に解体する」ことによつて《ミュージカルとドキュメンタリーの結びつき》の統合は現実のものとなる。

この論をなした後1962年に書かれた名作『砂の女』で、この「アクションの徹底的な分解は、けっきょく、現実を無意味なまでの細部に解体する」ことによつて一次元上で統合した現実は〔註2〕、この作品の第2章で次のやうに定義されてゐる：

「《砂—岩石の碎片の集合体、時として磁鉄鉱、錫石、まれに砂金等をふくむ。直径2～1/16m.m》」また、その後、

「《……なお、岩石の破砕物中、流体によってもっとも移動させられやすい大きさの粒子》」そして、その後続く、心理的ではなく生理的な砂の叙述、即ち《ニュートラル》の叙述、即ち安部公房に特有固有の生理的・思弁的な即ち対立が次元上で一つに1に即ち全体に即ち作品自体が次第に存在になり行く予兆を示す汎神論的存在論の、砂の、可塑性の高い、その文体（style：様式）、

「地上に、風や流れがある以上、砂地の形成は、避けがたいものかもしれない。風が吹き、川が流れ、海が波うっているかぎり、砂はつぎつぎと土壌の中からうみだされ、まるで生き物のように、ところきらわず這ってまわるのだ。」（そしてこの大きな説明の後に繰り返し語られる穴の中に生きる主人公の皮膚といはず人格の中にまで沁み込んで来る砂の粒子の叙述）

安部公房は異質なものを複数含む、即ち風や川や海や土を一つにまとめて成り立つミュージカルスといふ総合舞台藝術、否、総合藝術映画にいたく惹かれたので、最後の三つ目のミュージカルス論『ミュージカルスの反省』を書いて、この一連のミュージカルス論を終へてゐる。この最後の論で、安部公房はミュージカルスとは次のものと述べてゐる。

（1）「ミュージカルスが一種の遊びの精神から出たものであることは、ぼくも否定しない。」

（2）「遊びの根本精神を、一口に言ってしまえば、それは方法をとおして現実を枠づける精神である。」〔註3〕

（3）これは「現実を、単純なルールの中に閉じこめ、自由にあやつれるものにする事で、主体の優位を確保しようという、きわめて健康な精神のあらわれなのである。」（これが安部公房のいふ健康といふ言葉の意味だと知られる。要するに安部公房用語で云ふ「仮説設定の文学」である。〔註3〕）

（4）「現実に対する主体の敗北を、医学用語では、ヒステリーという。メロドラマを求める心理は、つまりは、慢性潜在性ヒステリーだということになる。」

（5）「主体の余剰にもとづく遊びの精神は、ちょうどこのヒステリーの精神と反対のものなのだ。だからヒステリー患者は、遊びを憎み、恐れ、軽蔑することになる。」

しかし、更に続けて曰く、

（6）「しかし、日本の文化には、どうもこの慢性潜在性ヒステリー症の傾向が強すぎるようだ。」

と、ここまで見立てが及ぶと、21世紀の今日のこの日の中華人民共和国武漢発のチャイ

ナチ・ウイルスにまで問題の本質が及んでみて、私の筆は嬉々としてそちらの方向に滑り始めるといけないので、上記引用の後の安部公房の筆はサルトルの透明・不透明演技論と其の「内的統一」の問題に及んでミュージカルの積極的な意味は「新しい演技を生み出すために」あるといふ安部公房の主張をこのやうにまとめて、一連の《ニュートラル》ミュージカル論のまとめはこれまでとします。

考へて見れば、1970年代の安部公房スタジオの特に後期・後半の舞台では、安部公房は此の《ニュートラル》演技論・演技指導論の確立と共に、自らも作曲をしながら、舞台監督も務めて、実際に「イメージの展覧会」シリーズの連作的舞台によつて、自ら云ふ1960年代の「失踪三部作」を経た後に〔註4〕、実現してゐるのでした。そして、しかし、この作品群はアメリカ公演で大きな成功を取めたにも拘らず、日本の演劇界には全く理解がされずに終はり、1980年代の箱根の山に籠る晩年に入ることになります。

21世紀の今になつて思へば、日本と云ふ特殊（と日本人自身が盲信してゐる其）の中に世界的に通用する普遍を探究した安部公房が、海外に普遍があると盲信した特殊な日本の演劇界に裏切られたといふことが、事実として理解されます。そして、このことは日本の演劇界に限らぬことであつたと、今日日本人は、無知蒙昧なる職業的倫理と使命を喪失した政治家と行政官僚と経済界の守銭奴たちを除いては、十分に成熟した理解に至つた今日のpax coronaの令和時代ではないのであらうか。飢餓を代償にしてでも自由を希求するか、それとも食事が何不自由なく与へられて満足する奴隷になるか。これは安部公房が『箱男』刊行後の講演で聴衆に発した問いでした。各自ご研究されたい。安部公房の読者は当然に安部公房の如くに前者を選択すると私は信ずる。いよいよとなつたら、人生にいいところ取りはありません。しかし尚問ふ、安部公房の読者として無意識にでも超越論者であるが故に二者択一の嫌いなあなたに於かれては如何なる選択があり得るものか。

## 〔註2〕

この安部公房の仮説設定の文学の論理が、そのまま安部公房スタジオの演技論《ニュートラル》を役者たちが文字通りに体得するための演技指導論として実践指導されてゐたことを、当時安部公房の側にゐて安部公房スタジオの稽古場にも脚を運んだ親しい成城高校の後輩にして詩人の辻井喬、同時に西武劇場の経営者として安部公房スタジオのパトロンの地位にゐた堤清二が次の証言してゐる。安部公房の死の年に発刊された『へるめす』（1993年11月9日発行。岩波書店）で、大江健三郎と武満徹との鼎談「解発する文学―もぐら日記」から安部公房を読む―」での発言です（同誌62ページ上段）：

辻井： 安部さんの演技の指導の仕方を私流に表現すると、まず演技者、俳優の肉体をいっぺん分解してしまう。肩は肩、腕は腕、足は足と分解する。分解が十分にいったなと思うところで再構築する。分解する過程で、お客さんを楽しませるために身についた悪いしぐさ、いわゆる通念みたいなものを全部捨てさせる。捨てたなと思つたらそこで再構築する。安部さんが言葉を使って自分の小説世界をつくるのと同じようなプロセスで、演技指導していたように思いますね。ところが、安部さんの演技指導についてこれら役者が減ってくる傾向もあった。あるいは彼がこぼしていたのは、「せつかく演技指導してわかりかけたやつがテレビに一月出て帰ってくると元よりもひどくなっている。これをまた分解しなきゃいけないのでいつまでたっても芝居が成り立たない。テレビというのは、君、悪いな」というようなことを言っていた。

武満：それは始終言っておられたですね。

辻井：技術的な困難も痛感したので〔引用者：安部公房スタジオを〕やめちゃったのかもしれない。」

[註3]

「仮説設定の文学」とは、安部公房独自の、topologyといふ数学に基づく、仮説を現実よりも優先させて言葉で現実を叙述してこれを想像のうちに變形させることにより作品構造が言語構造自体であることによつて夢のやうな世界（贗の世界）でありながらしかし本物の世界（現実の世界）であるといふ二つの世界の等価関係自体を一つの形象化された第三の世界（超越論的な時間の存在しない世界）として読者の脳内に又その眼前に現出せしめるといふメタSF文学理論です。仮説設定の文学を私の言葉で過不足なく定義するとこのやうな定義になります。他方、安部公房の言葉でいへば、次のやうになる。

二つのエッセイ『仮説の文学』と『ぼくのSF観』に〔註A〕、安部公房が「仮説を設定することによって、日常のもつ安定の仮面をはぎとり、現実をあたらしい照明でてらし出す反逆と挑戦の文学伝統の、今日的表現にほかならない」仮説の文学伝統に則る文学だとして挙げてゐるSF小説は、次のものです。

ルキアノス「本当の話」

「竹取物語」

呉承恩「最遊記」

セルバンテス「ピイドロ博士」

スウィフト「ガリバー旅行記」

M・W・シェリー「フランケンシュタイン」

ポオ「ハンス・プファアルの無類の冒険」

メルヴィル「白鯨」

コロデー「ピノキオ」

キャロル「不思議の国のアリス」

ステューヴンソン「ジーキル博士とハイド氏」

ヴェルヌ「海底二万マイル」

ウェルズ「透明人間」

チャペック「人造人間」「山椒魚戦争」

アポリネール「オレノ・シュブラックの滅形」

幸田露伴「番茶会談」

内田百閒「冥途」

シュペルヴィエル「ノアの方舟」

三島由紀夫「美しい星」

その他マーク・トウェイン、石川淳、花田清輝、安部公房の諸作品。

[註A]

『仮説の文学』（全集第15巻、238ページ下段）

『ぼくのSF観』（全集17巻、288ページ）

[註4]

『砂の女』『他人の顔』『燃えつきた地図』を、作者を初めに読者たちもまた作者に倣ひ、失踪三部作と呼びならはしてゐる。



## 私の本棚

西村幸祐・元陸将福山隆対談

『「武漢ウイイル」後の新世界秩序』を読む

岩田英哉

私は普通は対談本は読まない。それは、たとへ後で編集段階で手を入れようが、話言葉はスカスカで中身が希釈されてみて、書き言葉による文章には遠く及ばないからである。しかし、これは違つた。福山さんといふ元陸将は優れた方で関心と理解の領域も広く深く、自分の軍事の領域と隣接諸領域との相関と均衡（バランス）が取れてゐる。

この対談は何について真剣に論談されてゐるかといふと、今尚猛威を振るふ武漢ウイイルの後の地球上の世界について、現状分析・現状認識をして世に示してゐる対談本だといふことになります。この認識を冷徹に第三次世界大戦と呼んでゐる。従ひ、主題は日本の国家の安危・安全保障です。この問題が凝縮されて然るべき視点、即ち政治・経済・軍事・文化（従ひ精神）・外交の各視点から語られ尽くされてゐます。医療問題は国家の安危・安全保障に含まれてゐる。この問題は政治・経済・軍事・文化（従ひ精神）・外交の各領域に及んでゐるのです。即ち、この武漢ウイイルまたは新型コロナもしくはコロナ・ウイイルは、地球的な規模で此の問題の全貌を明らかにしたといふことが、対談を読むと一目瞭然に判ります。

私は最初どのやうに此の書評を始めるか其の最適な比喩は何かと考へて思ったのは、子供の頃遊んだ蜜柑の汁で白紙に暗号を書いて乾かし、後で火に炙つてその文字や絵や、とにかく隠れて見えない様々な情報が表に露わになる此の遊びを例にして話を始めると一番読者に理解が容易であると思つたら、福山元陸将が同じ比喩で対談の最初の発言をしてゐるのは全く同感でした。私は半分から先を終はりまでを最初に読んでから1ページ目を開いたのです。そこから読んでも国家、といふことは国民の・個人の安全保障の問題が語られてゐますので、対談の前後に矛盾はないのです。私は此の本が日本の国内でエピデミック・ペストセラーになることを強く願ふものです。

以上を内容の要約に留めて、以下、この本から知り得た「武漢ウイイル後の新世界秩序」について私の想像を纏めて此の本に関する書評の後半としたい。

## 1。世界は次の三つの一次国家群に分かれる

- (1) United Nations of America（アメリカ連合軍）：UNA
- (2) United Nations of China（中国連合軍）：UNC
- (3) United Nations of Europe（欧州地域連合軍）：UNE

これら三者は色合ひは見かけ上異なるがいずれも狭義広義を問はず共産主義国家連合軍であつて同時に衰退にある国家群です。

- 2。世界は次の第二次国家群に分かれる。上記1からなる対立・抗争の中心円を囲んで、
- (1) United Nations of Russia : UNR
  - (2) United Nations of India : UNI
  - (3) United Nations of Persia (Iran) : UNP

3。その他の第三国群（アジア・アフリカ・中近東・中南米・太平洋諸国）：the 3rd Goups：この中でまた、第一次および第二次国家群との関係で、離合集散があるだらう。

この第二次国家群は一つの文明圏を創造した国家の名前を挙げてゐる。イデオロギーに依るのは本来別の国家であつて、私のいふEXIT帝国足り得る国のことです。この二つの帝国は近代欧米の文明圏からの離脱（LEAVE）をしようとして来た。肝心なことは、肝腎要の吾が日本帝国（Imperial Japan）は既に有る一國一文明圏として独立してあるべきものを、第一次国家群に入るのか第二次国家群に入るのかといふことである。要するに国家意志の問題です。論理的な結論は一つ。United Nations of Japan（日本国連合軍）を立ち上げれば良いのです。また、このやうに整理をしてみれば、これらの国家のUnited Nations（国家連合軍）といふ言葉が全体ではなく部分を表してゐることから判るやうに、United Nations（外務省の国民を欺いて愚弄する欺瞞の訳によれば「国際連合」）は、地域と歴史に応じて既に今現在分割されまたは分解してしまつてゐるといふことです。即ち、今の「国際連合」は、時代の変化の速度について行けずに私たちの目の前に留まつて見える何かの残像だといふことです。

今とこれからの座標は次の二つの座標軸からなります：

- (1) 米中の座標軸（UNA対UNC）
- (2) 資本主義・民主主義と共産主義・計画経済

日本のゐるべき/ゐることのできる象限は第一象限（UNA且つ資本主義・民主主義）であることは明確です。あと二つのことを述べて終はりにします。

1。元陸将曰く、現行日本国憲法がコロナ（皆既日食）である（同書162ページ）。これを、私はかねてより神道の観点から現行日本国憲法はイデオロギーであるが故に穢れであると言つてゐるのは軌を一にしてゐることは領域は異なれども同じ主張であることは自明な結果であるとしても、私は今まで欧米白人種キリスト教徒の繁栄（本当は商売の繁盛といふべきではないかと思ふが）させてきた文明—こんな野蛮なものが本当に文明の名にふさはしいかは疑問である—に敬意を表して、大航海時代に倣ひ大コロナ時代と皮肉を言つて来たのをあらためて、pax corona（パクス・コローナ）と呼ぶことに、この本を読み終はつて、心變はりがしたのです。何故なら、pax coronaのコロナが皆既日食なれば、これは言ふまでもなく天照大御神が天岩屋にお隠れになり、地上は真っ暗闇になつて闇夜に私たちは生きることになるといふ誠に素晴らしい令和の時代の始まりであるからです。この時何が起きたか。神々が集ひて三種の神器のうちの二つが、それぞれの神によつて製作された。卑猥極まりなくもまたエロスに満ちた、ホトをも露はに見せて踊る天宇受売命（あめのうづめのみこと）の裸踊りで岩屋の戸を開けた天照大御神が女性であるわけではなく、ひよつとしたら男かも知れぬといふ、キリスト教徒には及びもつかぬ性の深淵の太古からの歴史も同時に露はになるといふことも世に再び知られて（今度の世は地球上にといふ意味である）、私たちの現下キ

リスト教の偽善的な道徳によつて枯渇せる道義・道徳のエネルギー（これを世界史的視野から観て歴史的に「モラーリッシュ・エネルギー」（道義力）といふ）が再び真の夜に湧き出でて、生命が蘇生し、お祭りと祀り事が蘇生をし、透明なる夜に生き生きと生きるようになるからです。時代のキーワードはどうやら透明といふ言葉であるらしい。しかし透明性（transparency）とは既に20世紀のコンプライアンスなどといふ欧米近代国家の此れも自業自得の偽善的規則とは御免を被り、自由奔放なる私たち日本人の透明性の安全保障に努めることとなります。これがpax corona、皆既日食の大コロナ時代の平和である。透明なる夜の時代です。

2。このイデオロギーであるが故に穢れである現行日本国憲法の最も悪辣なる第9条の改定をこの書評を書きながら思へば、何も難しいことはなく次のやうに肯定を否定に、否定を肯定に正直に文章を変へれば良いだけのことであつた。この安全保障の塞（ふさぎ）のためにどれほど私たちの頭が悪く成つてゐたことか、それが今よく解るのである。さうして、これが如何に地球といふ猿の惑星に棲む人類を自称してゐる猿の末裔の安危・安全保障に役立つことであるか。

#### 第九条

第一項：末尾「永久にこれを放棄する」を「永久にこれを放棄しない」に変更する。

第二項：冒頭の条件文「前項の目的を達成するため」を「前項の目的を達成しないために」と変更する。

以下同条全文は次の通りとなる：

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄しない。

（2）前項の目的を達しないために、陸海空軍その他は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

最後に：

中国共産党の仕掛けて来た第三次世界大戦は此の全体主義の名付けた「超限戦」であれば、誠に「仁義なき戦い」である以上、私たちも通俗的な美德と道徳を捨て去り「神器なき戦ひ」を以て対抗すべきと考へるが、あなたに於かれては如何。やつかいなることに、この世界大戦は「透明なる戦争」（論理層での戦争）なのである。即ち文明間戦争・宗教戦争・思想戦争・通信技術戦争であり、道義・道徳・徳義の、モラーリッシュ・クリーク

（moralischer Krieg）なのである。代理戦争も含めて世界各地の国内で戦争(war)・戦闘(battle)・市街戦(combat)・殴り合ひ/白兵戦(fight)が戦はれるので（日本帝国内もまた例外ではない）、このドイツ語を複数形にすべきかも知れない。この戦ひにテロリズムを加へる。

全てを白紙にして、武漢ウイルスといふチャイナチ・コロナで炙り出された世界の現状と今

ネット・メディア論  
(9)

岩田英哉

## 目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
  - 3.1 マス・メディアとは何か (20世紀)
    - 3.1.1 世界観としてのマス・メディア (一神教のtopology)
    - 3.1.2 マス (mass) とは何か
    - 3.1.3 マスとプロパガンダ
    - 3.1.4 マス・メディアとプロパガンダ
    - 3.1.5 1945年までの日本国家と1945年以後の日本国家の関係
    - 3.1.6 マス・ジャーナリズムとは何か
  - 3.2 ネット・メディアとは何か (21世紀)
    - 3.2.1 世界観としてのネット・メディア (超越論のtopology)
    - 3.2.2 ネットとは何か
    - 3.2.3 ネットとプロパガンダ
    - 3.2.4 ネット・メディアとプロパガンダ
    - 3.2.5 ネット・ジャーナリズムとは何か
- 4. ネット・モナド論
  - 4.1 モナドの概念と定義
  - 4.2 ネット・モナドの概念
  - 4.3 ネット・モナド(personal)の定義
  - 4.4 日本国の位相史上のネット・モナドの位置
  - 4.5 ネット・モナドの対象とする監視・調査項目
  - 4.6 Topologyで右翼と左翼の関係を明確にする
- 5. 公私とは何か
  - 5.1 公私の最小単位
  - 5.2 マス・メディアでの公私とは何か：一神教の公私
  - 5.3 ネット・メディアでの公私とは何か：超越論 (汎神論的存在論) の公私
- 6. 二階層戦争論とメディア論の関係
  - 6.1 ネット・メディアの問題を二階層戦争論で考察する
  - 6.2 ネット・ヘゲモニー問題とは何か
  - 6.3 二階層戦争論による解決策
  - 6.4 空気とは何か
    - 6.4.1 空気の定義
    - 6.4.2 オロチXの定義
- 7. 政治形態と自由
  - 7.1 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い
  - 7.2 公私の最小単位再説
  - 7.3 政治形態E&Aの公私：一神教のtopologyの政治形態
  - 7.4 政治形態Jの公私：高天原のtopology (超越論) の政治形態
- 8. 経済形態と自由
  - 8.1 資本主義と政治形態Jを如何に一つにするか
  - 8.2 ネット・メディアの役割
- 9. 私たちは如何に生きるべきか
  - 9.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
  - 9.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

6. 二階層戦争論とメディア論の関係

この問題を考えるための準備として、「ネット・モナド視点で観た日本位相史（鏡史）」に戻って全体を考えてみたい。再掲します。青い色の破線の枠囲ひをした領域がネット・モナド、即ちあなたの世界です。

2019/11/24, 11/27, 2020/06/29 岩田英哉											
ネット・モナド視点で観た日本位相史（鏡史）											
（超越論である位相史観、鏡史観に依る）											
1867 明治維新      1945 大東亜戦争での敗戦      2019 令和元年											
		左眼	天照大御神	瓊瓊杵尊 (ににぎのみこと)	三種の神器 (八咫の鏡、草薙の太刀、八咫瓊勾玉) : 天皇 (すめらみこと)		日本書紀 (漢文で書かれた歴史書/時系列の事績書) : 時系列の書	近代国家としてある古代国家 (大日本帝国)	偽装・誤訳・偽善国家日本	[日本帝国]	備考 天照大御神と月読命といふことで日本の国の均衡が保たれて来た/ある。
		鼻	素戔嗚命	素戔嗚命	素戔嗚命	初代神武天皇以来今上陛下までの125代の系譜	素戔嗚命	素戔嗚命	素戔嗚命	素戔嗚命	この暮れん坊は均衡 (バランス) の破れにいつでも名前を変えて登場する
高天原	イザナギの命 (の体)	穢れを祓ふ			神社A, B : 全国津々浦々の神社	大八島 (日本列島)	古事記 (時間を捨象して日本語 (和用漢字) で書かれた位相史、鏡史) : 超越論 (汎神論的存在論) の書			ネット・モナド (といふ汎神論的存在は、イザナギの命の右目から生まれたといふ系譜になる)	ネット・モナドは昔風に云へば無名の民草である。しかし異なるのは mobile と云ふ武器を手にしてあること、そして無数の月読命が汎神論的にネット上に存在してあることである。
		右眼	月読命								
大八島	イザナミの命 (根の國にある)										
時間の中に國が降りて来るに (生死の別が生まれるに) 際して 時間の中にあることで生まれる穢れを祓ふために御祓をした						文字輸入による 国土と自然に対する 穢れを祓ふために 二種類の仮名が 生まれた					

更に、「二階層戦争論を考えるための分類」を掲示します。これら二つを重ね合はせて考えると問題に関してどういふ解決があるか。

6.1 ネット・メディアの問題を二階層戦争論で考察する

20190612										
eiyu iwata										
二階層戦争論を考えるための分類										
論理層	ネット地勢学	国境なし	地勢動態論	中央絶対集権型放射状 topology	並行四辺形に 押掛けの topology	第三項の階層	超越論	汎神論的存在論	通信技術戦争 1	
物理層	地政学	国境あり	地政静態論	一神教の topology	大地母神崇拜の topology	二項対立の階層			通信技術戦争 2	
				中華人民共和国	日本帝国					
論理層	論理戦争	プロバガンダ戦争 1	文明間戦争 1	宗教戦争 1	イデオロギー戦争 1	検閲 1	ネット・ヘゲモニー	検閲 1	ネット・メディア	
物理層	物理戦争	プロバガンダ戦争 2	文明間戦争 2	宗教戦争 2	イデオロギー戦争 2	検閲 2	ヘゲモニー	検閲 2	マス・メディア	
Text										
論理層	ネット・ヘゲモニスト	GAF A	プラットフォーム 1	ネット・ヘゲモニー論 (ネット覇権論)	ネット・モナド論 (**)	モナド・メディア論 1 (**)	ネット政治・ネット経済批評	第二次冷戦 (Cold War) 1	第二次 COCOM 1	第三次世界大戦 1
物理層	ヘゲモニスト	近代国家	プラットフォーム 2	ヘゲモニー論 (覇権論)	社会モナド論 (*)	モナド・メディア論 2 (**)	政治・経済批評	第二次冷戦 (Cold War) 2	第二次 COCOM 2	第三次世界大戦 2

	20190612										
	eiya iwata										
<b>二階層戦争論を考へるための分類</b>											
論理層	ネット地勢学	国境なし	地勢動態論	中央絶対集権型放射状 topology	並行四辺形に纏掛けの topology	第三項の階層	超越論	汎神論的存在論	通信技術戦争 1		
物理層	地政学	国境あり	地政静態論	一神教の topology	大地母神崇拜の topology	二項対立の階層			通信技術戦争 2		
				中華人民共和国	日本帝国						
論理層	論理戦争	プロパガンダ戦争 1	文明間戦争 1	宗教戦争 1	イデオロギー戦争 1	検閲 1	ネット・ヘゲモニー	検閲 1	ネット・メディア		
物理層	物理戦争	プロパガンダ戦争 2	文明間戦争 2	宗教戦争 2	イデオロギー戦争 2	検閲 2	ヘゲモニー	検閲 2	マス・メディア		
					Text						
論理層	ネット・ヘゲモニスト	GAFGA	プラットフォーム 1	ネット・ヘゲモニー論 (ネット覇権論)	ネット・モノド論 (**)	モノド・メディア論 1 (**)	ネット政治・ネット経済批評	第二次冷戦 (Cold War) 1	第二次 COCOM 1	第三次世界大戦 1	
物理層	ヘゲモニスト	近代国家	プラットフォーム 2	ヘゲモニー論 (覇権論)	社会モノド論 (*)	モノド・メディア論 2 (**)	政治・経済批評	第二次冷戦 (Cold War) 2	第二次 COCOM 2	第三次世界大戦 2	
論理層	目に見えない戦争 (透明な戦争)	存在の戦争	形而上の戦争		(*) モノドの定義：モノドとは社会を構成する全ての価値の単位である。モノドは大小に、全体と部分に、1か多数かに拘らず全て等価で存在する。		(*) 社会の定義：社会とは民主主義 (政治体制) と資本主義 (経済体制) からなる世の中のことである。			(**) ネット・モノド論とモノド・メディア論は、今私の構想してあるネット・メディア論の中心をなすメディア論の一部です。	
物理層	目に見える戦争	現存在の戦争	形而下の戦争								

結局、この「二階層戦争論を考へるための分類」のマトリクスを眺めると、現下の問題は要するに中央集権型のトポロジーと並行四辺形に纏掛けの (私のいふ) 高天原トポロジー、一般化して高天原型トポロジーの対決であり対立であるといふこととなります。これはこのまま「文明の衝突」といふ問題になつてゐます。

前者を技術者はスター型トポロジーと呼んでゐるが、スター型では本当に綺羅星の如き映画スターといふやうな耳目衆目を集める人のことですから、こんなイメージで理解されるといふ誤解を避けるために、共産主義トポロジーと呼ぶか (政治)、グローバリズム・トポロジーと呼ぶか (経済)、一神教トポロジー (宗教) と呼ぶか、言葉狩り・ポリティカルコレクトネス・トポロジーと呼ぶか (文化範疇への侵略) は様々ですが、これらの総称として、中央絶対支配トポロジーと呼ぶことにします。中央の権力が絶対的にその他の構成要素を範疇を超えて末端に至るまで 1 : 1 の関係で完全に支配することを目論むトポロジーといふ意味です。中国共産党の独裁体制を思ふと具体的なイメージが浮かびます。そして、それぞれの領域では上記のやうな個別トポロジーの名前になるといふ順序です。高天原型トポロジーを選ぶといふことが、平凡ではありませんが、私の解決策です。

## 6.2 ネット・ヘゲモニー問題とは何か

ですから、今検閲で問題になつてゐる YouTube といふ動画投稿プラットフォームの強権的な検閲といへども、この Google 傘下にあるのであれば親会社の Google が改心して自らの非を認め、中央絶対支配トポロジーを私たちの高天原型トポロジーに変形しますと経営方針を変へるならば、

強権的な検閲はなくなり、独占的な市場にあつて他社の参入を容認するといふ余裕を与へるといふ判断をすることになるでせう。この変形は、巨大企業である以上様々な問題を解決しなければならず難儀なことですが、国家単位でものを考へると、各国国制と国情に即した変形を個別に強ひられ又選択することになります。これは国家単独であるひは国家連携してなすべき国家水準で講ずるべき手立ての話ですが、しかしこの仕事はひとまづ政治家に任せて、私たちの話をメディアのトポロジーの話に焦点を絞りたい。

さうすると、話は地方自治体とその下の企業の階層にまで降りて来る。ここまで降りて来ると、ネット・ジャーナリスト足るネット・モナドの個衆 (personals) および個人 (personまたはpersonal—国家の管理するindividualではない人) は、スマートフォンを用ひて事実の報道といふことが、個人の名前でまたは匿名で行ふことができる。投資の世界に機関投資家があり個人投資家があるやうに、メディアの世界にも機関メディア (機関媒体) と個人メディア (個人媒体) があるといふ構図になります。この個人メディアが「二階層戦争論を考へるための分類」との関係で一体何に関する報道をするのかといふことは、既に「近代国家模型図」で示した通りです。

このヘゲモニーといふ問題の解決は論理層であれ (ネット・ヘゲモニー) 物理層であれ (政治的なヘゲモニー)、後述の「6.4 空気とは何か」で定義した空気が隠微な影響力を行使しますので、この定義に照らして、ネット・ヘゲモニーを論ずることが必要です。私の考へる解決策は次の通りです。

### 6.3 二階層戦争論による解決策

#### (1) 日本人による独自設計に基づくプラットフォームを構築する

結局、今検閲で問題になつてゐるYouTubeといふ動画投稿プラットフォームの強権的な検閲の問題を解決するには、日本人による独自のプラットフォームを構築する以外にはないといふのが私の結論です。このプラットフォームは当然に高天原型トポロジーで形成されてゐる。人工言語はMADEIN JAPANのOSであるTRONを使ひます。

#### (2) 最上位外部接続規則の制定

究極の解決策は、中央絶対支配トポロジーを高天原型トポロジーに変形させることを受け入れない限り、この日本のプラットフォームに接続を禁止する。ましてや、中国共産党に関係する接続などは直接間接の接続を問はず、たとへ一点たりともあつてはならない。従ひ、この解決案は、上は国家の安全保障から、下は個人 (individual・personal) の安全保障までを対象とするものです。このことは論理層のみならず、物理層でも同じことを行はねば効果がありませんので、国家ならば断交からヴィザ発給による個別入国者制禦 (コントロール) に至るまでの階層で手立てを講じなければならない。当然に法律の制定と改定を必要とします。

#### (3) 古事記・位相史観の上に構築する

この場合のプラットフォームは上掲「ネット・モナド視点で観た日本位相史 (鏡史)」に戻つて全体を考へた上で、この基礎の上に築かれるべきものです。この鏡史観は水平に描いてゐますが、これを日本人の十八番 (おはこ) である縦のものを横に・横のものを縦にといふ等価交換で垂直に立てると、次の「日本位相習合史」を得て、私たちの意識・無意識の根底にある此のプラットフォームの不動の基礎が明らかになります。

ダウンロードは：<https://docdro.id/keZUMem>

2019/12/27, 2023/01/08, 05/09 若田剛典		日本列島位相史(v8.01)	
古事記および大経前と身原健嗣から得た私の知見に最新の学術的知見(国文学・考古学・地質学・航海学の知見)を入れてまとめた位相史		日本文明は近代欧米のものよりも最低でも200年現代に先行してゐる	
この二つの紀元を神道が審合により統合して今日に至つてゐる			
日本列島の西半分		日本列島の東半分	
現在の日本の国 公武合体政策の適用		令和時代	
公武合体政策の適用		明治・大正・昭和時代	
御城・御邸 米穀市場(米相場)の成立		徳川時代	
軍事政治の位相		安土桃山時代	
御城・御邸 武士(さぶらふ者)の登場		室町時代・応仁の乱・戦国時代	
カタカナ・ひらかな		南北朝	
仏塔(石塔)・境内(神域)		鎌倉時代	
御殿・御堂		平安時代	
秋津鹿大和の国(大和朝廷)の成立【山門(ヤマ・ト)の成立と普及】		大平時代	
日本人による東征(神武東征)		白鳳時代	
大國主命の出雲の国譲り		飛鳥時代	
環境特許の天孫降臨(磐座より降す)		古	
日本人による西征と交易(関東から九州・四国・赤坂の島・本州西半分へ)		近代I	
織文文明(織文諸時代・諸時期)		近代II	
最初の地勢的審合(国生み)		現代	
最初の民族的審合(伊弉那岐・伊弉那美の婚媾)		近	
最初の言語的審合(これが日本語である)		近	
最初の文化・習俗的審合(縄文土器はこの日本列島最初の二つの民の審合の結実である)		代	
地(つち)の民 ← 審合 → 海(あま)の民		代	
岩石文明(磐座文明)		太古	
日本列島		石器紀元	
審合日(または審日の審合)		縄文紀元	
東南アジアからの発祥文化・地の民の到来		新	
東アジアから高宮海峡と津軽海峡の陸橋を渡つて来た発祥文化・地の民の到来		代	
旧石器時代		新	
		代	

(1) 18世紀の山形県の酒田に米相場が成つた時点、または大阪と江戸で米相場が成つ時点でいづれも今のニューヨークのウォール街で、そしてネットで世界中で普通に行はれてゐるレヴァレッジを効かせたCFD(差金決済取引)が行はれてゐたわけですから、この時期を以て資本主義の成熟と考へることがきますから、これは金融の事実であり世界中の誰も否定することはできない歴史的事実である以上、これから以降二十一世紀の今日までを現代と呼びます。従ひ、

(2) 現代といふ時間区分と呼称を考へても、日本文明は一国一文明として近代欧米文明よりも最低でも200年先行してゐる。明治維新以降の歴史は無念なるかな、文明劣化の歴史である。

(3) 近代ヨーロッパの歴史観(時系列事象・事件列挙史観)によれば、キリスト教の盛期である13世紀、または14世紀を否定して近代と云ふ時代に生きる其の地域の諸国と国民に意味の



のない時代であるといふことで「暗黒の中世」と歴史の捏造をして呼びならはしてゐるものを、日本の歴史にそのまま当てはめることはできません。しかし名前だけでもあればヨーロッパと話がしやすいかといふ消極的な理由で、この名前を凶中に入れたものです。もし個人の確立といふことを史観の指標にするならば、武士の登場した鎌倉時代が近代の始まりといふことはおかしくはありません。それ故に二種類の近代I, IIの表示となつてゐます。『吾妻鏡』（鏡史観・位相史観である）を読みますと、この日本の個人の確立としての指標と考へた日本的個人、即ち武士といふ人間像は、ヨーロッパの都市の市民的な個人とは比較にならぬほど武に於いて誠に現実的にも苛烈を極めるといふべき、即ち死を厭はぬ完全に独立した人間です。今日に至るもさむらひと云ひ武士といふならば、この苛烈なる個人を指していふことに日本人の間にも異論はない。ましてや外国に於いてをや。〔註1〕この武士といふ時代を画する指標的人間は海の民、即ちカコ（水主・水手）の裔であるといふ私の仮説については、日本刀の起源論と共に既に論じました。このやうに考へると何故関東地域から武士が生まれたのかの説明がつかます。また、苛烈なる個人精神あればこそ（これを武士道といふ）、仏教の禪を個人として求道するといふことは合点が行くのです。

## 〔註1〕

この近代といふ用語の適用範囲の指定については、この位相史の観点のみならず、次の二氏によるそれぞれの異なる経路を辿つて至つた同じ結論があります。

（1）小堀桂一郎東京大学名誉教授『國史上の「中世」について』（季刊『新日本学』平成十八年夏 第一号。80ページ下段）：

「本稿の筆者自身は前號まで六回に亙つての連載を許された、日本に於ける超越者の思想の系譜を辿る考察（初回は昭和六十二年三月東京大学教養学部紀要「比較文化研究」第二十五輯所収『天童●（一）』を進めてゆく段階で、日本の近代（又は近世）は鎌倉時代に始まる、その前代は神代の肇國の昔から平安末までを含めて古代である、との二分法に到達した。より少しく具體化して言へば、日本の古代は平安末期まで續き、保元の亂（A.D.1256）から承久の變（A.D.1221）までの、それを以て中世などとはとても呼べない六十六年の短い過渡期を経て近代に入った、と見るのである。

日本の近代は鎌倉時代に始まる、との提題は折にふれ、機會を見ては口にも筆にもしてゐるが、歴史學界からは當然ながら無視黙殺の扱ひになつてゐる。ただ、最近田中英道氏が『新しい日本史観の確立』（平成十八年三月、文芸館刊）」の結論部で、〈西洋がつくり出した「中世」という概念が、歴史の捏造であることは、すでに何度か述べたが、その定式がいつのまにか日本史の定式となつたことは、はつきり誤りであると言わなければならない。日本（史）はだいたい二つの大きな時期に分けるだけで良い、と思われる〉と記してをられるのに接して、洵に力強い同心の言を得るの思ひをなした。日本史は古き世と新しき世の二つに分けて考へるだけでよく、その境界線をどの邊に引くか、又二分の際の尺度を如何なる人間現象のうちに取るか、田中氏と筆者の見解は必ずしも一致はしてゐないであらうが、それこそ所詮は研究上の便宜のための標識であつて細かく穿鑿するに値することではない。」

（2）田中英道東北大学名誉教授著『新しい日本史観の確立』（文芸館、326ページ）に言及されてゐる私のいふ指標、または小堀桂一郎氏のいふ標識、そして田中英道氏のいふところを語彙に忠実に約していへば

「根底的变化」点として、同氏が日本独自の本質的变化指示標識として挙げてゐるものは「宗教」であり、文意を読めば日本の歴史にあつては（ヨーロッパのキリスト教といふ宗教の成熟に至つた中世を否定する歴史進歩史観とは異なり）常にどの時代でも宗教は首尾一貫した指標足り得るといつてゐる。その上での小堀氏引用の〈西洋がつくり出した「中世」という概念が、歴史の捏造であることは、すでに何度か述べたが、その定式がいつのまにか日本史の定式となつたことは、はつきり誤りであると言わなければならない。日本（史）はだいたい二つの大きな時期に分けるだけで良い、と思われる〉といふ主張です。

#### 6.4 空気とは何か

江藤淳著『批評と私』の「ペンの政治学」より次の箇所を引いてその後定義の形式に仕立てて、あなたと共有したい。

昭和58年（1983年）、来たる国際ペンクラブの東京大会のメインテーマ「核状況下における文学——なぜわれわれは書くのか」の採否を決める理事会で唯一人反対した江藤淳が同年「四月二十日の理事会は、私の反対表明のあと、予算案の審議に移ったが、私は、井上会長〔引用者：作家井上靖〕の言葉も巖谷専務理事の返答も、いずれもペンクラブの実状を反映しているものではないことを、あらためて確認せざるを得なかった。この日の理事会で、井上会長は、少なくとも私が出席してからは、一語をも発せず、散会後取材のために傍聴していた記者団のなかから、決議に反対した私の真意を訊きにきた記者は、只の一人もいなかった。

なるほど、暗黙の合意による自主検閲が、すでに整然と開始されているらしい。あらかじめ路線が決まっているストーリーの枠からはずれるニュースは、事柄の如何にかかわらず無視することにし、なかんずく少数意見のごときは、一切これを報じないという方針が確立されているにちがいない。果たせるかな、私の眼に触れた限りでいえば、新聞はこの日の理事会における私の発言を、一行も報じようとはしなかった。」（同書123ページ～124ページ。傍線引用者）

これは、江藤淳が当時の日本ペンクラブの主宰で東京大会を開催するに当たって、そもそも文学に政治に持ち込むといふ範疇を意図的に混同するといふ共産主義の理屈に、文学者として反対したことに加えて、何よりも此の批評家が「日本ペンクラブの”反核”決議に反対したのは、単に”反核”が「政治的」だからという理由にとどまらない。むしろ”反核”を決議するというそのこと自体のなかに、いわば構造的に隠されている”排除”の論理が、きわめて「政治的」に作用せざるを得ないからにほかならない。」からである。

そして、この異議申し立てが正当である理由は、国際ペン憲章第四項に違反するからである。第四項の定めは「P・E・Nは平時における言論、報道の自由を堅持し、独断的な検閲に反対する」ことを明示してある。」からであり、「いうまでもなく、ペンクラブは、当然この精神を尊重して設立され、運営されている、自由な文学関係者の団体であるべきはずである。」からである。ここで江藤淳の指摘してある「各社記者諸君」の非は、箇条書きにすると次の通りです。

- (1) 「言論、報道の自由」を放棄してゐること
- (2) 「表明した少数意見を黙殺し、
- (3) あまつさえ「独断的な検閲」を行い、
- (4) 「少数意見の存在を世間に対して隠蔽して憚らなかつた」こと

これらを一言で締めて、江藤淳は「”反核”決議に加担する」こと自体の中に「内包されているあの”排除”の論理」と呼んでゐる。そして、予め此のやうに示し合はせて「暗黙の自主検閲」の体制を敷いた単数または複数人間からなる黒幕を「仮にその名を大蛇（オロチ）として置こう」といひ、この「少なくとも日本の文壇とジャーナリズムに関するかぎり、その饅えたような匂いを漂わせ、知的・精神的頹廢を充満させている元兇」をゴチックの太字にして「**オロチX**」と呼んでゐる。

この文壇の頹廢、即ち全てが私語で処理されて、素知らぬ顔をして何も知らぬふりをしてゐるといふ言論に関するペン（筆）に関はつてゐる筈の人間たちを巡る話は続くのであるが、ここまで読めば、空気といふ概念を定義するには十分であるので、引用と要約はここまでとして、以下空気の定義です。

#### 6.4.1 空気の定義

最も簡素な空気の定義は次のものです：

##### 空気の定義1（簡素版）

空気とは、暗黙の合意による自主検閲のことである。

もう少し現実的に直感的に応用できるやうに定義を構成する言葉を尽くすと次のやうになります：

##### 空気の定義2（詳細・具体版）

空気とは、主たる関係者または関係する組織が、事前に私語によつて総意の方向を定めることによつて、事実を報道すべき記者・ジャーナリストも含めた関係者に対し、暗黙の合意による自主検閲を強ひることである。

##### [補足説明]

従ひ、この空気が原因で次の悪事が結果する：

- (1) 言論と報道の自由の放棄
- (2) 表明した少数意見の黙殺
- (3) 明示された基準・規準（クライテリア）のない独断的な検閲の「執行」
- (4) 少数意見の存在を世間に対して隠蔽して憚らぬ恥ずべき不公正なる所業

陰に隠れて此の悪事を企むものを「**オロチX**」といひ、例をあげれば、「”平和”を掲げて自由を圧殺し、”反核”と多数の名において個人の自由な肉声を奪」ふことを企図する、悪意ある「”排除”の論理を強行」する「多目的な権力構造」である（原文は傍線は傍点）。

この**オロチX**の唱へる上記引用の” ”で括られた用語を一般用語に置き換へれば、次のやうな定義になる。

### 6.4.2 オロチXの定義

#### オロチXの定義

**オロチX**とは、積極的な定義はできず消極的にしか定義できない言葉を掲げて自由を圧殺し、反・何々を唱へて多数の名に於いて個人の自由な肉声による発言を奪ふことを企図する、悪意ある排除の論理を強行して恥じない多目的的な権力構造である。

#### [補足説明]

積極的な定義とは、肯定形で定義できる言葉の定義のことです。例を挙げれば、犬はワンワンと吠えて家の番をしてくれる四つ足の動物である。といふような定義の形式のことです。これに対して、私たち人間の持つてゐる言葉には否定形でしか消極的に定義できない言葉があります。これが始末の悪いことに皆高邁にして高貴であつて理想や理念に関する言葉なのです。曰く、自由・平等・博愛・平和といふような言葉です。自由の定義は、自由とは不自由ではないことであるといふ定義にならざるを得ず（何故なら不自由の例は無数にバラバラ一人一人個別に異なつてあるから定義できない）、平等とは不平等ではないことであるといふ定義になり（何故なら不平等の例は無数にあるから同様の理由で定義できない）、平和とは戦争をしてゐない状態のことである、といふやうに定義する以外にはないのです（何故なら人間はしょ中様々な戦争をしてばかりゐるから）。このやうな用語の定義を消極的な定義といひます。この手の言葉を掲げて実現を図るとイデオロギーといふ硬直した教義といふものになつて、世の中が益々乱れるのです。この定義の分類は、私がドイツの哲学者ショーペンハウアーの主著『意志と表象としての世界』に叙述されてゐるところに学んだ知識です。叙述といふ言葉の意味は原理に拠つて、従ひ体系的に記述されてゐる文章といふ意味です。

この消極的定義の論理は、二進数の論理演算による論理学でいふと否定論理和といふ論理です。『碧巖録』にも同じ論理が延々と書かれてゐる箇所があつて、ははあ、鎌倉時代の禅の御坊さんもかうやつて悟りの道への修業を積むものかと思つたことがあります。身の周りにある個別のあれこれをその場で次々に否定して行くのです。机ではない、硯ではない、筆ではない、障子ではない、天井ではない、あれではないこれではないとやり始めると、これは自由の定義と同じことになつて永遠にさうやつてゐなければならぬ。それで修業僧は無限といふ概念を問ふことになつて、俺はこんな愚かなことを永遠に繰り返してゐて良いのだろうかと思つて自問自答することになつて、遂には宇宙の論理をはたと悟るに至るといふことになるわけです。従ひ、経済学者が自由な市場とか、自由主義経済とかお題目を唱へても、そんな市場はどこまで行つても存在せず、そんな経済学はどこまで行つても無いのです。有るのは、不自由な経済とか不自由経済主義である以外には、もし自由といふ言葉を使つて経済を定義しようといふのならば、ない。政治についてもまた然り。従ひ、政治学者が政治的自由を論じても永遠に果てることがない。禅の御坊さんは悟りに至るでせうが、政治学者や経済学者が悟ることは無理でせう。論理学（哲学に含まれる）を勉強しない限り。それで、専門家がかうでありますから、世の中は益々乱れるといふ仕儀に相成り、私たちは酷（ひど）い眼にあつてゐるといふことになるのであります。この否定論理和にのみに命を捧げて生きる愚かなる人々を共産主義者といひ、今は名を変へてグローバリストとかリベラルとか呼ばれてゐる。この主義者たちのお題目は常に「～からの自由」であり、「～からの解放」といつてゐることは、あなたご存じの通り。

さて、ここで本題に戻り、安部公房の流儀に倣って例題を出しますので、解いてみませう。

[例題]

中国共産党の所業を何故日本のマス・メディアは正しく報道することができず、報道機関として報道すべき情報を隠蔽して、これを報道の自由と嘯（うそぶ）いて恥じることがないかを明解に説明せよ。

【答1】 空気の定義を用いた回答

日本のマス・メディアは、中国共産党によつてつくられた空気によつて支配されてゐるからである。

空気の定義

空気とは、主たる関係者または関係する組織が、事前に私語によつて総意の方向を定めることによつて、事実を報道すべき記者・ジャーナリストも含めた関係者に対し、暗黙の合意による自主検閲を強ひることである。日中記者交換協定なるものの目的がこれであつた。といふことが、これでよく解る。

【答2】 **オロチX**の定義を用いた回答

それは、日本のマス・メディアは、中国共産党の意を受けた**オロチX**であるからである。即ち、この**オロチX**の**オロチX**が中国共産党だからである。

オロチXの定義

**オロチX**とは、積極的な定義はできず消極的にしか定義できない言葉を掲げて自由を圧殺し、反・何々を唱へて多数の名に於いて個人の自由な肉声による発言を奪ふことを企図する、悪意ある排除の論理を強行して恥じない多目的な権力構造である。この多目的な権力構造を、中国共産党は軍事用語として超限戦と呼んでゐることが、言論の世界との関係で、よく解る。

自由の定義はできてゐますし、「近代国家模型図」はできて手元にありますので、トポロジーといふ接続と変形の数学の（日本語の言葉の）概念（私たちが言霊と古来呼んできたもの）を用ひて、同様の流儀で、次の問題を解いてみませう。これを河上徹太郎は「近代の超克」と呼んだ。

## 6.5 21世紀の多領域統合理論

「21世紀の多領域統合理論」を再掲します。前掲の空気の定義を前提にして初めて現実的・实际的に此の表（マトリクス）の意義が発揮されます。要するに、言語再帰性の否定、即ちこれら各領域での共産主義による超限戦の目的は、各領域で重要な概念に備はる再帰性の絶対否定であるといふことです。即ち、概念の絶対否定であれば、具体的物理的な階層に於ける人・物・事に関係するもの全ての絶対否定であるといふ事になるのです。

2019/04/29 eiya iwata	21世紀の多領域統合理論						
言語原理（ロゴス）：自己再帰性【私は私である。】(v2)							
	現実現実				インターネット（仮想現実）		
	文化	経済	政治	宗教	ネット・モナド論	ネット・ヘゲモニー論	
自己再帰性の全面肯定か全面否定か	自己再帰性の復活と全面肯定	自己再帰性の復活と全面肯定	自己再帰性の復活と全面肯定	自己再帰性の復活と全面肯定	モナド自体の自己再帰性（モナド自体の等質性・等価性）の全面肯定理論	自己再帰性の全面否定理論（一神教のトポロジーである）；GAFA	
世界的社会現象	自国・自民族の伝統への回帰	MMT (Modern Monetary Theory)	トランプの登場（Globalismと共産主義の衰退）	一神教（言語自己再帰性の全面否定理論）の衰退	モナド部族（tribe：トライブ）・ネットワーク・トポロジーの形成	一神教（言語自己再帰性の全面否定理論）の衰退；GAFA	
自己再帰理論	三島由紀夫の「文化防衛論」の再帰性と自主性と全体性のこと。安部公房の言語機能論。	貨幣自己再帰理論	自国本位（Nationalism）：自国再帰理論	大地母神崇拜（言語自己再帰性の全面肯定）の復活：言語自己再帰性絶対肯定理論	世界は差異である（認識論）と価値は等価で遍在する（汎神論的存在論）：超越論である。	一神教のトポロジーに生きる人種は浮遊状態（虚無主義：ニヒリズム）が漫然する。今のグローバリズムは此の共産主義の蔓延に他ならない。道徳の頹廃。解決策は文化のカラム（列）に戻る事。	
					超越論/汎神論的存在論	共産主義	

### 7. 政治形態と自由

以上、これまでの考察を基礎にして、上からいへば、形而上学的・言語論的・言語学的には、意味形態といふ概念があり、これは眼に見えないことに関する形態であるものから、下は物理的・物質的な眼に見える形態に関する形態に至るまで、プラトンがイデア論で展開したのと同じ論拠による階層が、この天地の間に幾つも層をなしてあるので、まづ形態の最上位概念の一つである意味形態といふ概念について簡単に説明をしてから政治形態といふ概念についての説明をします。

(以下次号)

## 縄文紀元論

## Topologyで日本人を読み解く (7)

## 5.9 日本位相習合史

岩田英哉

## 目次

## I 縄文紀元日本語論

## 1. 日本語と漢語の関係

- (1) 言葉と概念と文字の関係
- (2) 音義と日本語の概念の関係
- (3) 漢字とひらかな・カタカナの関係
- (4) 音義と五十音表の関係
- (5) 有文字文明と無文字文明

Intermezzo: 何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかいないのか?

## 2. 日本語の音義と概念の関係: 五十音表とは何か

## 3. 五十音表を記号化する

## 4. 日本人の言語宇宙

## 5. 古事記の宇宙観

## 5.1 高天原とは何か1

## 5.2 カミとは何か1

## 5.3 高天原とは何か2

## 5.4 日本語の特殊の中の普遍

## 5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

## 5.6 天照大神とは何か

## 5.7 月読命とは何か

## 5.7.1 月とは何か

## 5.7.2 月読命とは何か

## 5.7.3 月読神社とは何か

## 5.7.4 ヤシロとは何か

## 5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

## 5.7.6 磐座と注連縄の関係

## 5.7.7 亀の甲羅とは何か

## 5.7.8 習合とは何か

## 5.8 カタカナとひらかなの関係

Intermezzo 2: 海風之大刀 (アマナギ・ノ・タチ) は一体どんな姿をしているのか

## 5.9 日本位相習合史

## 5.1.0 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてあるか

## 5.1.1 ダイダラボッチと巨人伝説: 大倭日高見国と播磨国: 房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

## 5.1.2 日本人はどこから来たか

## II Topologyで縄文土器を読み解く

## 0. 縄文土器の本当の名前は何か

## 1. 紋様とは何か

## 2. 縄文土器の構成要素

## 3. 縄紋は縄目と渦巻き紋様で出来てゐる

## 4. 縄文土器は三階層で出来てゐる

## 5. 縄文土器には開口土器と閉口土器の二種類がある

## 6. 縄文土器は私たちの宇宙観を体現してゐる

## 7. メディア (媒体) としての縄文土器

## 8. 弥生式土器は二階層で出来てゐる

## 9. メディア (媒体) としての弥生式土器

## 1.0. 縄文土器と弥生式土器の関係 (topologicalな連続性): 3 (奇数) から 2 (偶数) へ

## 1.1. 銅鐸は7階層で出来てゐる

## 1.2. 縄文土器の政治と弥生式土器の政治: 土器と政治の一体と分離: 銅鐸とは何か1

## 1.3. 縄文土器の経済と弥生式土器の経済: 土器と経済の一体と分離: 銅鐸とは何か2

## IV 21世紀の現代に縄文土器はどのやうに生きてゐるか

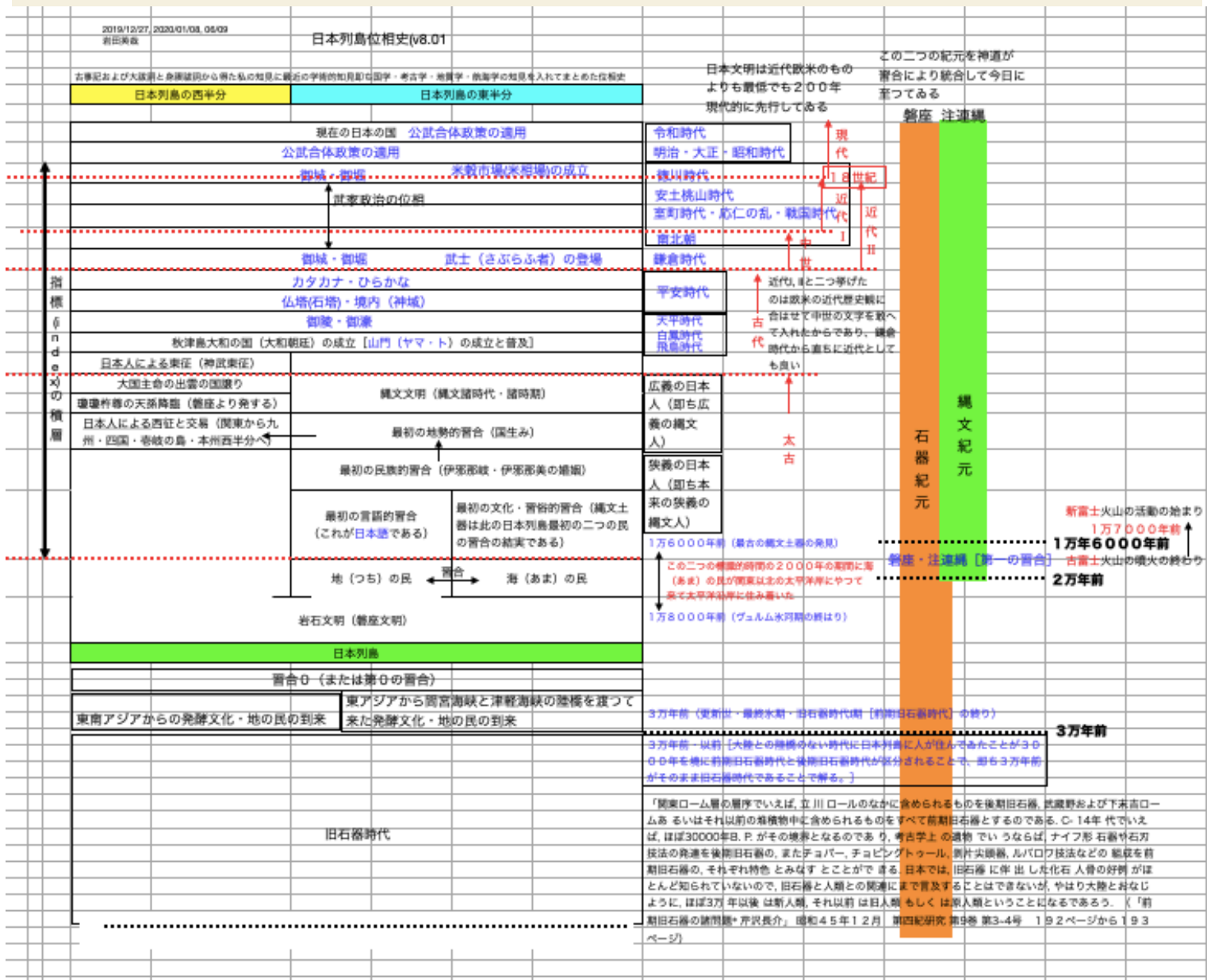
## VII 20世紀の幕を閉じ、21世紀に生きるための結語

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

5.9 日本位相習合史(version 8.1)

『堤中納言物語』所収の「蟲めづる姫君」の主人公である此の姫君を論じて、私たち日本人にとって斯く論じて来たカタカナ・ひらかなとは一体生活の中でどのような使ひ方を、実は今日に至るまでされて来たのか、そして今日も尚されてゐるのか、その伝統についての考察をしたい。

そのために以前掲げた「日本位相習合史」に少し手を加へたものを再掲します。これは以前のものに近代ヨーロッパのヘーゲル・ダーウィン歴史・進歩史観に代表的な「歴史観」と呼ばれる史観による時代区分なるものを「日本位相習合史」に付加したもので、丁度私たちの文明の総体が何かの断層のやうに見えるところへ、横合ひからピンで留めるやうにして、飛鳥時代とか室町時代とか江戸時代とかと入れてみたものです。ダウンロードは：<https://docdro.id/fx7whm7>





結論のみを述べて次章の本題に入ります。

### 【結論】

「日本位相習合史」の図を製作して判ったことは、次の通りです。

(1) 18世紀の山形県の酒田に米相場が成つた時点、または大阪と江戸で米相場が立つ時点でいづれも今のニューヨークのウォール街で、そしてネットで普通に行はれてゐるレヴァレッジを効かせたCFD（差金決済取引）が行はれてゐたことを以て資本主義の成熟と考えることができますので、これは金融上の歴史的事実ですから世界中の誰も否定することはできない以上、この時期から以降二十一世紀の今日までを私たちは現代と呼ぶことができる。従ひ、

(2) 現代といふ時間区分と呼称を考へても、日本文明は一国一文明として近代欧米文明よりも最低でも200年先行してゐる。明治維新以降の歴史は無念なるかな、文明劣化の歴史である。もはやこれ以上此の劣化に、何の義理があらうか、お付き合いする必要はないのではないか？

(3) この江戸時代の米相場の在り方の明確に示すことは、このやうな高度な金融資本主義が成立するためには必ずしも近代ヨーロッパ・アメリカ流の民主主義を必要とはしないといふ、これも歴史的事実である。

(4) 近代ヨーロッパの歴史観（時系列分類による時系列事象・事件列挙史観）によれば、キリスト教の盛期である13世紀、または14世紀を否定してその地域の諸国と人々には意味のない「暗黒の中世」時代であるといふことで中世と呼びならはしてゐるものを、日本の歴史にそのまま当てはめることはできませんが、しかし名前だけでもあればヨーロッパと話がしやすいかといふ消極的な理由で入れたものが「中世」です。もし個人の確立といふことを史観の指標にするならば、武士の登場した鎌倉時代が近代の始まりといふことはおかしくはありません。それ故に二種類の近代I, IIの表示となつてゐます。『吾妻鏡』（日本に伝統的な鏡史観・位相史観の書物）を読みますと、この日本の個人の確立としての指標と考へた日本的個人、即ち武士といふ人間像は、ヨーロッパの都市の市民的な個人とは比較にならぬほど武に於いて誠に現実的にも苛烈を極めるといふべき、即ち死を厭はぬ完全に独立した人間です。今日に至るもさむらひと云ひ武士といふならば、この苛烈なる個人を指していふことに日本人の間にも異論はない。ましてや外国に於いてをや。〔註1〕

この武士といふ時代を画する指標的人間は海の民、即ち天磐船の祭事の示すところによりカコ（水主・水手）の裔であるといふ私の仮説については、日本刀の起源論と共に、論じたところです。このやうに考へると何故関東地域から武士が生まれたかの説明がつかます。教科書の日本の歴史を読んでも、ある時突然関東の地に武士が登場して来るのは誠

に不自然である。歴史観があるなら因果の連鎖があるだらうに、その因果の十分なる説明はない。苛烈なる個人確立に至る因果の連鎖があるだらう。かくして、苛烈なる確立した個人であればこそ、武士が仏教の禪を個人として求道するといふことは合点が行くのです。そして、これは室町時代に生まれた茶道といふ道を通り現代にまで通つてゐる。他にも通つてゐる道は幾つもあることでせう。

## [註1]

この近代といふ用語の適用範囲の指定については、この位相史の観点のみならず、次の二氏によるそれぞれの異なる経路を辿つて至つた同じ結論があります。

(1) 小堀桂一郎東京大学名誉教授『國史上の「中世」について』（井尻千男責任編集 季刊『新日本学』平成十八年夏 第一号。80ページ下段）：

「本稿の筆者自身は前號まで六回に亙つての連載を許された、日本に於ける超越者の思想の系譜を辿る考察（初回は昭和六十二年三月東京大学教養学部紀要「比較文化研究」第二十五輯所収『天道攷（一）』を進めてゆく段階で、日本の近代（又は近世）は鎌倉時代に始まる、その前代は神代の肇國の昔から平安末までを含めて古代である、との二分法に到達した。より少しく具體化して言へば、日本の古代は平安末期まで續き、保元の亂（A.D.1256）から承久の變（A.D.1221）までの、それを以て中世などとはとても呼べない六十六年の短い過渡期を経て近代に入った、と見るのである。

日本の近代は鎌倉時代に始まる、との提題は折にふれ、機会を見ては口にも筆にもしてゐるが、歴史學界からは當然ながら無視黙殺の扱ひになつてゐる。ただ、最近田中英道氏が『新しい日本史観の確立』（平成十八年三月、文芸館刊）の結論部で、〈西洋がつくり出した「中世」という概念が、歴史の捏造であることは、すでに何度か述べたが、その定式がいつのまにか日本史の定式となつたことは、はつきり誤りであると言わなければならない。日本（史）はだいたい二つの大きな時期に分けるだけで良い、と思われる〉と記してをられるのに接して、洵に力強い同心の言を得るの思ひをなした。日本史は古き世と新しき世の二つに分けて考へるだけでよく、その境界線をどの邊に引くか、又二分の際の尺度を如何なる人間現象のうち取るか、田中氏と筆者の見解は必ずしも一致はしてゐないであらうが、それこそ所詮は研究上の便宜のための標識であつて細かく穿鑿するに値することではない。」

(2) 田中英道東北大学名誉教授著『新しい日本史観の確立』（文芸館、326ページ）に言及されてゐる私のいふ指標、または小堀桂一郎氏のいふ標識、そして田中英道氏のいふところを語彙に忠実に約していへば

「根底的变化」点として、同氏が日本独自の本質的变化指示標識として挙げてゐるものは「宗教」であり、文意を読めば日本の歴史にあつては（ヨーロッパのキリスト教といふ宗教の成熟に至つた中世を否定する歴史進歩史観とは異なり）常にどの時代でも宗教は首尾一貫した指標足り得るといつてゐる。その上での小堀氏引用の〈西洋がつくり出した「中世」という概念が、歴史の捏造であることは、すでに何度か述べたが、その定式がいつのまにか日本史の定式となつたことは、はつきり誤りであると言わなければならない。日本（史）はだいたい二つの大きな時期に分けるだけで良い、と思われる〉といふ主張です。

(5) 文明とは何かといふ問ひに位相史観（鏡史観）に拠つて、他の滅亡した文明の時間の長さも斟酌して答へると、少なくとも1000年の時間の長さの単位で数えることのない歴史（history）を持たぬ一國・一地域の総体を文明と呼ぶことはできない。近代ヨーロッパ地域が文明と呼ばれ得るには、18世紀の啓蒙時代から数へてあと700年、もし近世の始まりを16世紀に求めるならばあと500年の時間を、またアメリカ合衆國が文明と呼ばれ得るには、独立戦争のやはり18世紀よりあとの700年を要する。これらの地域と國が今の國制で500年も700年も近頃の流行語でいへばsustainableであり得るかどうかは、他國に要求する問題ではなく、この地域の人々にとつてこそその喫緊の課題、解決さるべき焦眉の

急である。もし自らを文明と呼び其の永い命を寿ぎたいと思ふならば、キリスト教文明と呼ぶ以外にはないといふことを、この地域の諸国諸国民は、個人も含めて、宿命として受け入れることであると私には思はれる。宿命とは小林秀雄の言葉である。

5.10 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

(以下次号に続く)

Topologyで日本の文化を解説する  
「内なる辺境」シリーズ  
(10)  
扇

岩田英哉



## 連載物・単発物次回以降予定一覧

- (1) 安部浅吉のエッセイ
- (2) もぐら感覚23：概念の古塔と問題下降
- (3) 存在の中での師、石川淳
- (4) 安部公房と成城高等学校（連載第8回）：成城高等学校の教授たち
- (5) 存在とは何か～安部公房をより良く理解するために～（連載第5回）：安部公房の汎神論的存在論
- (6) 安部公房文学サーカス論
- (7) リルケの『形象詩集』を読む（連載第15回）：『殉教の女たち』
- (8) 奉天の窓から日本の文化を眺める（6）：折り紙
- (9) 言葉の眼12
- (10) 安部公房の読者のための村上春樹論（下）
- (11) 安部公房と寺山修司を論ずるための素描（4）
- (12) 安部公房の作品論（作品別の論考）
- (13) 安部公房のエッセイを読む（1）
- (14) 安部公房の生け花論
- (15) 奉天の窓から葛飾北斎の絵を眺める
- (16) 安部公房の象徴学：「新象徴主義哲学」（「再帰哲学」）入門
- (17) 安部公房の論理学～冒頭共有と結末共有の論理について～
- (18) バロックとは何か～安部公房をより良くより深く理解するために～
- (19) 詩集『没我の地平』と詩集『無名詩集』～安部公房の定立した問題とは何か～\*
- (20) 安部公房の詩を読む
- (21) 「問題下降」論と新象徴主義哲学
- (22) 安部公房の書簡を読む
- (23) 安部公房の食卓
- (24) 安部公房の存在の部屋とライブニッツのモノダ論：窓のある部屋と窓のない部屋
- (25) 安部公房の女性の読者のための超越論
- (26) 安部公房全集未収録作品
- (27) 安部公房と本居宣長の言語機能論
- (28) 安部公房と源氏物語の物語論：仮説設定の文学
- (29) 安部公房と近松門左衛門：安部公房と浄瑠璃の道行き
- (30) 安部公房と古代の神々：伊弉册伊弉諾の神と大国主命
- (31) 安部公房と世阿弥の演技論：ニュートラルといふ概念と『花鏡』の演技論
- (32) リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
- (33) 言語の再帰性とは何か～安部公房をよりよく理解するために～
- (34) 安部公房のハイデッガー理解はどのやうなものか
- (35) 安部公房のニーチェ理解はどのやうなものか
- (36) 安部公房のマルクス主義理解はどのやうなものか
- (37) 『さまざまな父』論～何故父は「さまざま」なのか～
- (38) 『箱男』論II：『箱男』をtopologyで解読する
- (39) 安部公房の超越論で禅の公案集『無門関』を解く
- (40) 語学が苦手だと自称し公言する安部公房が何故わざわざ翻訳したのか？：『写真屋と哲学者』と『ダム・ウエイター』
- (41) 安部公房がリルケに学んだ「空白の論理」の日本語と日本文化上の意義について：大国主命や源氏物語の雲隠の巻または隠れるといふことについて
- (42) 安部公房の超越論
- (43) 安部公房とバロック哲学
  - ①安部公房とデカルト：cogito ergo sum
  - ②安部公房とライブニッツ：汎神論的存在論
  - ③安部公房とジャック・デリダ：郵便的 (postal) 意思疎通と差異
  - ④安部公房とジル・ドゥルーズ：褻といふ差異
  - ⑤安部公房とハラルド・ヴァインリッヒ：バロックの話法
- (44) 安部公房と高橋虫麻呂：偏奇な二人 (strangers in the night)
- (45) 安部公房とバロック文学
- (46) 安部公房の記号論：《 》 〈 〉 ( ) [ ] 「 」 『 』 「……」
- (47) 安部公房とパスカル・キニャール：二十世紀のバロック小説（1）
- (48) 安部公房とロブ＝グリエ：二十世紀のバロック小説（2）

- (49) 『密会』論
- (50) 安部公房とSF/FSと房公部安：SF文学バロック論
- (51) 『方舟さくら丸』論
- (52) 『カンガルー・ノート』論（済み）
- (53) 『燃えつきた地図』と『幻想都市のトポロジー』：安部公房とロブ＝グリエ
- (54) 言語とは何か II（済み）
- (55) エピチャム語文法（初級篇）
- (56) エピチャム語文法（中級篇）
- (57) エピチャム語文法（上級篇）
- (58) 二十一世紀のバロック論
- (59) 安部公房全集全30巻読み方ガイドブック
- (60) 安部公房なりきりマニュアル（初級篇）：小説とは何か
- (61) 安部公房なりきりマニュアル（中級篇）：自分の小説を書いてみる
- (62) 安部公房なりきりマニュアル（上級篇）：安部公房級の自分の小説を書く
- (63) 安部公房とグノーシス派：天使・悪魔論～『悪魔ドゥベモウ』から『スプーン曲げの少年』まで
- (64) 詩的な、余りに詩的な：安部公房と芥川龍之介の共有する小説観（済み）
- (65) 安部公房の/と音楽：奉天の音楽会
- (66) 『方舟さくら丸』の図像学（イコノロジー）
- (67) 言語貨幣論：汎神論的存在論からみた貨幣の本質：貨幣とは何か？
- (68) 言語経済形態論：汎神論的存在論からみた経済の本質：経済とは何か？
- (69) 言語政治形態論：汎神論的存在論からみた政治の本質：政治とは何か？
- (70) Topologyで神道を読む（1）：祓詞と祝詞と結界のtopology
- (71) Topologyで神道を読む（2）：結び・畳み・包みのtopology

[シャーマン安部公房の神道講座：topologyで読み解く日本人の世界観]

- (71) 超越論と神道（1）：言語と言霊
- (72) 超越論と神道（2）：現存在（ダーザイン）と中今（なかいま）
- (73) 超越論と神道（3）：topologyと産霊（むすひ）または結び
- (74) 超越論と神道（4）：ニュートラルと御祓ひ（をほらひ）
- (75) 超越論と神道（5）：呪文と祓ひ・鎮魂
- (76) 超越論と神道（6）：存在（ザイン）と御成り
- (77) 超越論と神道（7）：案内人と審神者（さには）
- (78) 超越論と神道（8）：時間の断層と分け御霊（わけみたま）
- (79) 超越論と神道（9）：中臣神道の祓詞（ほらひことば）をtopologyで読み解く：  
古神道の世界観
- (80) 三島由紀夫の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (81) 安部公房の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (82) 『夢野乃鹿』論：三島由紀夫の「転身」と安部公房の「転身」
- (83) バロック小説としての『S・カルマ氏の犯罪』
- (84) 安部公房とチョムスキー
- (85) 三島由紀夫のドイツ文学講座
- (86) 安部公房のドイツ文学講座
- (87) 三島由紀夫のドイツ哲学講座
- (88) 安部公房のドイツ哲学講座
- (89) 火星人特派員日本見聞録
- (90) 超越論（汎神論的存在論）で縄文時代を読み解く
- (91) 「『使者』vs.『人間そっくり』」論

編集後記

- 巻頭詩（5）：肌よ：フィリップ・ラーキン：連載の第一回です。イギリスの詩は渋い。次回以降の詩を楽しみにしてゐる。
- 全集未収録作品：シナリオ『億萬長者』生原稿 分載（3/4）映画評論1954.8月号：これが3回目。あと一回でおはります。
- 『周辺飛行』論（29）：3。『周辺飛行』について（23）：鷹魚（「箱男」より）——周辺飛行25：今回も新しい発見が幾つもありました。安部公房と様式をいよいよ日本近代文学の問題として論ずるに至ったか。ここまで来るのに第一号から5年を数へる。安部公房がエリアス・カネッティを評したのと全く同様に、泥炭の火のやうにぢりぢりと燃え続ける安部公房の文学です。文化大革命を世界中に輸出して覇を唱へる中国共産党の跋扈する今の時代こそ、安部公房と三島由紀夫がそれぞれの師匠と四人で宣明した反文化大革命の声明の意義が再評価されるべき時機です。
- 『砂漠の思想』を読む（4）：ミュージカルス：このミュージカルス論を読んで、安部公房の映画と小説と舞台とと、あれもこれも繋がりが解りました。やはり、読むものです。いづれ他の評論集も読む予定です。
- 私の本棚（30）：西村幸祐・元陸将福山隆対談『「武漢ウイスル」後の新世界秩序』を読む：これもいい対談でした。普通私は対談本は読みませんが、これは読んでよかったです。pax coronaに私たちは如何に生きるべきか。安部公房を読みながら考えたい。
- ネット・メディア論（8）：6。二階層戦争論とメディア論の関係：これもいろいろな要素が一つの束になつてゐます。論の収束に力を入れたので、このやうな文章と図表の引用となりました。
- 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（8）：5.9 日本位相習合史：面白く優れた数理的な史観を私たちは太古以来持つてゐた。三種の神器の一つが八咫鏡であることに深い理由があつたのです。これで地球上の世の中の国内外の腐敗と戦ふと云ふことです。遠慮会釈なく。何しろ相手は皆仁義なき戦ひを挑んで来るわけですから。超限戦とは白兵戦です。論理層・物理層ともに。
- Topologyで日本の文化を解説する「内なる辺境」シリーズ（10）：扇：待て次号。扇と陰陽五行を論じたいので、今しばしの猶予を戴きたい。
- ではまた、次号

差出人：

鷹安部公房

〒182-0003東京都調布

市若葉町「閉ざされた無限」

次号の原稿締切は超越論的にありません。いつでもご寄稿をお待ちしています。

次号の予告

1. 『周辺飛行』論（30）
2. 縄文紀元論（9）
3. 私の本棚：西尾幹二著『あなたは自由か』を読む～自由と奴隷について～
4. 哲学の問題101（11）：愛（Liebe：リーベ）
5. 大久保房雄を読む（1）：文壇とは何であつたか
6. サンチョ・パンサを求めて（8）：ドーナツの穴になつた話

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館、コロンビア大学東アジア図書館、「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。

